

資料

- ① 構成メンバー
- ② 研究プロジェクト一覧
- ③ 協力研究者一覧
- ④ 国際シンポジウム・セミナー・研究会一覧
- ⑤ 寄贈図書一覧
- ⑥ 電子化イベント一覧
- ⑦ 国立大学法人お茶の水女子大学
ジェンダー研究所規則
- ⑧ 国立大学法人お茶の水女子大学
特別招聘教授に関する規則
- ⑨ 『ジェンダー研究』編集方針・
投稿規程
- ⑩ ジェンダー研究所ウェブサイト
プライバシー・ポリシー

【資料】①構成メンバー

【所長】

石井クンツ昌子(基幹研究院人間科学系・生活科学部教授)

《任期》

2015(H27)年10月1日～2020(R2)年3月31日

【専任教員】

申琪榮(ジェンダー研究所准教授)

2015(H27)年4月1日～

大橋史恵(ジェンダー研究所准教授)

2018(H30)年9月1日～

【研究員】

棚橋訓(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2019(H31)年4月1日～2021(R3)年3月31日

小玉亮子(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2019(H31)年4月1日～2021(R3)年3月31日

斎藤悦子(基幹研究院人間科学系・生活科学部准教授)

2019(H31)年4月1日～2021(R3)年3月31日

戸谷陽子(基幹研究院人文科学系・文教育学部教授)

2020(R2)年1月1日～2021(R3)年3月31日

【特別招聘教授】

ジャン・バーズレイ(ノースカロライナ大学チャペルヒル校・教授)

2018(H30)年8月2日～2019(R元)年7月31日

【特任講師】

板井広明

2019(H31)年4月1日～2020(R2)年3月31日

【特任リサーチフェロー】

仙波由加里

2019(H31)年4月1日～2020(R2)年3月31日

平野恵子

2019(R1)年5月1日～2020(R2)年3月31日

吉原公美

2019(H31)年4月1日～2020(R2)年3月31日

【アカデミック・アシスタント】

稲垣明子

2019(H31)年4月1日～2020(R2)年3月31日

梅田由紀子

2019(H31)年4月1日～2020(R2)年3月31日

滝美香

2019(H31)年4月1日～2020(R2)年3月31日

和田容子

2019(H31)年4月1日～2020(R2)年3月31日

【客員研究員】

足立眞理子

2019(H31)年4月1日～2020(R2)年3月31日



所長 石井クンツ 昌子

基幹研究院人間科学系・教授
生活科学部生活社会科学講座
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 生活政策学コース
博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

専門分野： 家族社会学、ジェンダー社会学、社会心理学

所属学会等 日本家族社会学会(会長)
日本学術会議 連携会員／社会統計調査アーカイブ分科会(委員長)／
WEB調査の課題に関する検討分科会(幹事)／
新しい社会的課題の解決に関する総合的検討分科会(幹事)／
人口縮小社会における問題解決のための検討委員会
日本社会学会
日本家政学会家族関係部会
社会学系コンソーシアム(評議員)
福井県男女共同参画審議会(会長)
National Council on Family Relations (Legacy Circle Member)

主な業績

《著書・論文・報告書・書評》

- 2019 笹川平和財団(2019)『新しい男性の役割に関する調査報告書』分担執筆
2019 日本社会学会社会学教育委員会(2019)『社会教育のグローバルスタンダードとは？—英語圏の教科書の分析—』分担執筆
2019 「家族とメディア」西野理子・米村千代(編)『よくわかる家族社会学』pp.134-135.
2020 “Japanese Women, Past and Present.” Johnsbraten, Anne-Stine. *Good Wife, Good Mother.*

《講演・報告等》

- 2019 「家庭内性別役割分業の現状と家庭科教育への期待」高津市民館男女平等推進学習 6月
2019 “Gender and Families: A Comparison between Japan and the U.S.” 京都外国語大学 6月
2019 「パパとママの意識改革～それぞれの自分らしさを考えよう～」葛飾区男女平等推進センター区民大学 7月
2019 「女性リーダーの育成と女子大学の役割:お茶の水女子大学の事例から」実践女子大学 7月
2019 「日本およびアジア地域における男性意識調査の分析について」笹川平和財団「新しい男性の役割に関する調査報告書」意見交換会 7月
2019 「男性の育児・家事と女性の就労から考える男女共同参画」広島県男女共同参画研修会 8月

- 2019 「海外ジャーナル投稿と査読プロセス」日本家族社会学会ラウンドテーブル、神戸学院大学 9月
- 2019 石井クンツ昌子・多賀太・伊藤公雄・植田晃博「男性性とケア行動—東アジア5都市の比較から—」日本社会学会、東京女子大学 10月
- 2019「趣旨説明」及び企画・運営、学術会議シンポジウム「社会調査のオープンサイエンス化へ向けての課題」首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス 10月
- 2019 「女性の就労と多様な役割から考える男女共同参画」東京女子大学 2019年10月
- 2019 「家族とジェンダー～家族社会学のアプローチ～」お茶の水女子大学附属高校 新教養基礎～『問い』を立てる 11月
- 2019 “Women’s Employment and Men’s Domestic Work in Contemporary Japan: Are They Related?” “Women Can Change the World” Symposium, Showa Women’s University, December
- 2020 「LGBTQ+のパートナーシップ・ファミリー・子ども」*The Community* 座談会座長 3月

《競争的資金》

- ・科学研究費基盤研究B(課題番号:18H00937)「「男性性のゆらぎ」の現状と課題」、2018～2020年度(研究代表者:伊藤公雄・京都産業大学)、研究分担者



専任教員(准教授) 申 琪榮

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース(コース長)
生活科学部生活社会科学講座

専門分野: ジェンダーと政治、東アジア政治、フェミニズム理論、男女共同参画政策

所属学会等 International Political Science Association

American Political Science Association

European Conference on Gender and Politics

International Association for Feminist Economics

日本政治学会(分野別研究会「ジェンダーと政治研究会」、企画委員、書評委員)

日本フェミニスト経済学会

日本社会政策学会

ソウル大学日本学研究所『日本批評』海外編集委員

釜山大学女性学研究所『女性学研究』編集委員

ソウル大学比較地域秩序研究会共同研究員

日本政治学会(企画委員、書評委員)

「女性・戦争・人権」学会

日米女性政治学者シンポジウム(JAWS、アメリカ政治学会国際交流プログラム)日本側コーディネーター

同志社大学人文社会科学研究所客員研究員

主な業績

《論文・共著・その他》

- 2019 「女性候補者のなり手を増やすための試み——パリテ・アカデミーの実践が示唆すること」、辻村みよ子・三浦まり・糠塚康江編著『女性の参画が政治を変える——候補者均等法の活かし方——』、pp.101-114、信山社。
- 2019 “#MeToo in Japan and South Korea: #WeToo, #WithYou,” *MeToo Political Science*. Routledge. pp.97-111 (with Linda Hasunuma) (転載)
- 2019 「여성할당제를 넘어 성균형 의회로: 할당제의 운용과 20 대 국회의원들의 인식 (From Gender Quotas to Gender Parity in Legislatures), 『이화젠더법학』, 11(3):207-243. 2019. (査読あり)
- 2020 “An Alternative Form of Women’s Political Representation: *Netto*, A Women’s Party in Japan,” *Politics & Gender* 16 (March): 78-98 (Special Issue 1: Special Symposium on Women’s Parties) (Online First <https://doi.org/10.1017/S1743923X19000606>) 16 Dec. 2019. (査読あり)
- 2020 “Women’s Parties: A New Party Family,” *Politics & Gender* 16 (March): 4-25, (Special Issue 1: Special Symposium on Women’s Parties) (Online First DOI: <https://doi.org/10.1017/S1743923X19000588>), 25 Oct. 2019. (with Cowell-Meyers, Kimberly, Elizabeth Evans) (査読あり)
- 2019 「関係あるかも？私、と政治」、『フォーラム通信』、横浜市男女共同参画センター、2019年夏号、p.7
- 2020 『若年女性の政治参加』(第95回公開講演会)、人文研ブックレット No.65、同志社大学人文科学研究所。
- 2020 「大韓民国の事例」『令和元年度諸外国における政治分野への女性の参画に関する調査研究』、内閣府男女共同参画局調査報告書。
- 2020 「コラム～台湾における女性の政治参画とクオータ制度」『令和元年度諸外国における政治分野への女性の参画に関する調査研究』、内閣府男女共同参画局調査報告書。162-168. 2020年3月。

《学会報告》

- 2019 “The Impact of Gender Parity Law in Japan: Survey Analysis of Japanese Diet Members,” 2019 Asian Election Studies International Conference, Oct. 29, Taiwan (with Mari Miura)
- 2019 “Who Opposes Quota and Why?: Survey Analysis of Korean and Taiwanese National Legislators,” European Conference on Politics and Gender, University of Amsterdam, July 4~6 (with Chang-ling Huang).
- 2019 申琪榮「ジェンダー化された雇用営業戦略と顧客ケア」社会政策学会、高知県立大学、5月18日～19日（金井郁と共著）。

《招待講演・ワークショップ報告》

- 2019 「政治リーダー養成の試み——パリテ・アカデミーの実践が示唆すること」、日本学術会議シンポジウム『男女がともにつくる民主政治を展望する——政治分野における男女共同参画を推進する法律の意義』、4月6日
- 2019 国立女性教育会館『2019年度地域における男女共同参画リーダー研修』テーマ別分科会「政治分野における女性の参画」、5月23日
- 2019 「政治が変わると生活が変わる！女性議員をもっと議会に送ろう」久留米市男女平等推進センター、6月21日
- 2019 「異なる視点が未来を創る～女性の政治参画」千葉県市川市男女共同参画センター、6月29日
- 2019 「持続可能な政治代表性は得られるのか——クオータ制の15年」、国会図書館研究会報告、7月29日
- 2019 「政治分野における男女共同参画～政治（議会）に女性が参画すると何が変わる？」公益財団法人新潟県女性財団講演、9月10日
- 2019 「#MeToo in Japan and Korea」、台湾国立大学 Global Asia Research Center 国際シンポジウム『東アジアのMeToo運動』、10月28日
- 2019 「日本の家族制度——夫婦別姓と女性の名前」韓国ソウル大学家族学講座特別講義、11月5日
- 2019 「若手女性の政治参加——女性政治リーダートレーニングの試みから」、同志社大学人文科学研究所第95回公開講演会、11月8日
- 2019 「政治リーダー養成の試み——パリテ・アカデミーの実践が示唆すること」、シンポジウム『男女共同参画社会基本法とジェンダー平等：施行から20年を振り返る』11月15日名古屋大学
- 2019 「若手女性の政治参画～私だからこそできる」、筑紫女学院大学女性活躍支援センター講演、11月21日 筑紫女学院大学
- 2019 「女性議員が増えると暮らしが社会が変わる～議会に多様な声を届けるために～」、佐賀県立男女共同参画センター政治参画セミナー、11月21日 佐賀女子短期大学、11月22日 唐津市民交流プラザ
- 2020 “Gender-based Public Funding for Political Parties: Why Doesn’t It Work in South Korea?” Research Workshop on Gender and Financial Cost of Elected Office Worldwide. Bergen University, Norway, Jan. 24-26. 2020 (with Soo-hyun Kwon).
- 2020 「政治まると体験会～女性の声で政治はどう変わる？～」福島県郡山市市民部男女共同参画課、2月15日
- 2020 「意思決定の場における男女共同参画」『令和における生き方講座』岩手県男女共同参画センター、2月16日

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K12604)「ジェンダークオータの政治学——制度化と抵抗」、2019～2021年度、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 B(課題番号:18H00817)「女性の政治参画の障壁：国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査」、2018～2020年度(研究代表者:三浦まり・上智大学)、研究分担者



専任教員(准教授) 大橋 史恵

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース
文教育学部グローバル文化学環

専門分野: ジェンダー研究、国際社会学、中国地域研究

所属学会等 International Association for Feminist Economics

日本社会学会
関東社会学会
日本フェミニスト経済学会(幹事会役員、『経済社会とジェンダー』編集委員)
ジェンダー史学会(常任理事)
現代中国学会
中国女性史研究会
経済理論学会分野別ジェンダー分科会

主な業績

《著書・論文》

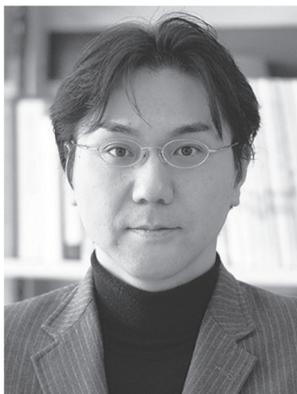
- 2019 「大娘たちとくともに歩む」という〈闘い〉 —— 中国山西省における日本軍戦時性暴力問題をめぐる運動」、『ジェンダー研究』(22)、pp.81-91
- 2019 「「香港社会の家事労働者——『中国』と『外国』の狭間における分断と連帯」、伊藤るり編著『家事労働の国際社会学——ディーセント・ワークを求めて』、人文書院、2020 年。

《学会報告・講演》

- 2019 Situated in Dislocation: Rural Migrant Domestic Workers' Mooring Strategies in Urban China, Paper presented at the 2019 IAFFE Annual Conference, Glasgow, United Kingdom, June 27, 2019.

《競争的資金》

- ・ 科学研究費補助金・基盤研究 B「新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー——インド・フィリピン・中国の国際比較」(課題番号:17H02247) 分担研究者(研究代表者:堀芳枝)、2017 年度～2019 年度
- ・ 科学研究費補助金・基盤研究 B「再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯」(課題番号:19H01578) 分担研究者(研究代表者:定松文)、2019 年度～2021 年度
- ・ 科学研究費補助金・基盤研究 C「香港における移住女性の再生産労働力配置——「グローバル・シティ」のジェンダー分析」(課題番号:19K12603) 研究代表者、2019 年度～2021 年度



特任講師 板井 広明

専門分野: 社会思想史、経済学史、食の倫理とジェンダー

所属学会等: 経済学史学会

日本イギリス哲学会

社会思想史学会

政治思想学会

日本フェミニスト経済学会(幹事)

日本有機農業学会

日本経済理論学会(分野別ジェンダー分科会コアメンバー)

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「リベラル・フェミニズムの再検討」(22 頁参照) / 18 世紀末ブリテンにおける女性論の諸相: 功利主義的フェミニズムの可能性(23 頁参照)
- ・ IGS セミナー「J.S.ミルにおけるデモクラシーと女性参政権」企画・コーディネーター・司会(60 頁参照) / 「日本における女らしさの表象」企画・コーディネーター・司会(66 頁参照) / 「持続可能な社会をめざすエンパワメントの教育:ジェンダーの視点から」企画・コーディネーター・司会(68 頁参照) / 「A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives: Family, Society, and Gender」企画・コーディネーター・司会(70 頁参照) / 「コンドルセの政治社会像と女性への視点」企画・コーディネーター・司会(78 頁参照)
- ・ IGS 研究会“Shared Visions for Korea-Japan Relations: Globalism, Peace, and Gender Issue” 司会(80 頁参照)
- ・ 国際教育プログラム「AIT ワークショップ」(107~113 頁参照)
- ・ 大学院講義科目「国際社会ジェンダー論」演習(123 頁参照)
- ・ IGS ランチョンセミナー企画運営
- ・ IGS 運営会議陪席メンバー
- ・ ウェブサイト・SNS・メーリングリスト等による情報発信・広報(136 頁参照)
- ・ シンポジウム・セミナー・研究会ポスター作成(44~46 頁参照)
- ・ 情報機器・ネットワーク管理

主な業績

《著書・論文》

2019 “Surveillance and Metaphor of ‘Tribunal’ in Bentham’s Utilitarianism”, *Revue d’études benthamiennes*, no.16, 2019, Centre Bentham, <https://doi.org/10.4000/etudes-benthamiennes.6132>

《学会報告等》

2019 “Comment on Prof. Elson ‘Intersections of gender and class in the distribution of income’”, 武蔵大学国際シンポジウム『所得格差におけるジェンダーと階級 Intersections of Gender and Class in the Distribution of Income』10 月 21 日(月)

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K01570)「18 世紀末ブリテンにおける女性論の諸相:功利主義的フェミニズムの可能性」、2019~2021 年度、研究代表者



特任リサーチフェロー 仙波 由加里

専門分野: 生命倫理学、生殖技術とジェンダー、生殖技術に関連する倫理的問題

所属学会等: 日本医学哲学・倫理学会(国際誌編集委員)

日本生命倫理学会(評議委員)

日本生殖看護学会

European Society of Human Reproduction and Embryology (ESHRE)

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「生殖医療とジェンダー」(26 頁参照) / 「性に関する情報と実践—性教育に関する研究」(27 頁参照) / 「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」(28 頁参照) / 「生殖補助技術で形成される家族についての研究」(30 頁参照) / 「AID で生まれた人の『出自を知る権利』を保障するための教材作成に関する研究」(29 頁参照)
- ・ NTNU 国際共同研究プロジェクト 「NJ_BREGED プロジェクト」プロジェクトメンバー(114~117 頁参照)
- ・ IGS セミナー(生殖領域)「生殖医療技術と男性性」企画・コーディネーター・司会(58 頁参照) / 「性別二元制規範を考える」企画・コーディネーター・司会(76 頁参照)
- ・ IGS 研究会「Exploring How Women's Contraceptive Choices Can Be Influenced by Their Views on Abortion」報告: Contraception and Abortion in Japan(84 頁参照)
- ・ 『ジェンダー研究』、編集スタッフ。主に書評編集担当(128~131 頁参照) / ・ 海外からの問い合わせ・訪問者対応

主な業績

《著書・論文》

- 2019 「どのような人が理想の配偶子ドナーとなりうるか——ニュージーランドと英国のドナーたちの経験から——」『生命倫理』30 号、pp.69-76。(査読あり)
- 2019 「子どもをもつためにはいかなる生殖技術を使ってもよいのか」(pp. 280-281)「死後生殖をどのように受け止めるのか」(pp.282-283)「遺伝上の親、産みの親、育ての親が異なると、子に混乱をもたらすのか—生殖技術と親子関係」(pp.284-285)「生殖補助技術の進歩は何をもたらすのか」(pp.292-295)、盛永審一郎、松島哲久、小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版、分担執筆
- 2020 トヨタ財団研究助成『生殖補助技術で形成される家族についての研究』、報告書(単著)『血のつながりをこえて——提供精子・提供卵子・養子でできた家族の物語』人間と歴史社
- 2020 「子どもへのテリングを考える——イギリスの事例から」科学研究費助成事業『私たちが大切にしたいもの——AID で加増になった人たちの告知への思いと実践——』pp. 106-115、平成 28 年度(2016 年度)基盤研究(C)(一般)「AID で生まれた人の「出自を知る権利」を保障するための教材作成に関する研究」(研究代表者:清水清美—城西国際大学看護学部)成果物、分担執筆

《学会報告・講演》

- 2019 国際シンポジウム招聘報告“Abolishment of Donor Anonymity : What Can Japan Learn from the Experience of Victoria State, Australia and New Zealand?” (in English)、シンポジウム名: New Reproductive Technologies and Global Assemblages: Asian Comparative Perspective、国立台湾大学、5 月 17 日
- 2019 学会発表: 日本人口学会第 71 回年次大会 企画セッション①「性に関する情報の伝達と人口」パネリスト、香川大学、6 月 1 日
- 2019 一般講演会: すまいる親の会(AID で子どもを持った/持とうとしている親の会)勉強会、「子どもへのテリングを考える——イギリスの事例から」、城西国際大学、12 月 21 日

《競争的資金》

- ・ トヨタ財団研究助成 「生殖補助技術で形成される家族についての研究」、2017 年 5 月~2020 年 2 月末、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:18K00034)「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」、2018 年~2020 年度、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:16K12111)「AID で生まれた人の『出自を知る権利』を保障するための教材作成に関する研究」、2016 年~2019 年度(研究代表者:清水清美・城西国際大学)、研究分担者



特任リサーチフェロー 平野 恵子

専門分野: 国際社会学、ジェンダー研究、インドネシア地域研究

所属学会等: International Association for Feminist Economics

日本社会学会、国際ジェンダー学会、日本フェミニスト経済学会
アジア政経学会、東南アジア学会、移民政策学会

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「送出国から見た国際労働力移動のジェンダー分析」(36 頁参照) / 「移民受入れ国—送出国の政策相互連関——国際社会学からの比較研究」(37 頁参照) / 「現代インドネシアにおける『移住・家事労働者』の変容」(38 頁参照) / 「再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯」(34 頁参照) / 「インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合」(39 頁参照)
- ・ IGS セミナー “Gender and Politics in Indonesia after 2019 Election” 企画・コーディネーター・司会(73 頁参照)
- ・ 『ジェンダー研究』編集スタッフ(128～131 頁参照)
- ・ 海外からの問合・訪問者対応

主な業績

《著書・論文》

- 2019 「インドネシア人移住・家事労働者を取り巻く『非・安全』な制度への取り組み」『学術の動向』, 24(6): pp.20-23.
- 2020 「移住家事労働者が帰還後ジャカルタで家事労働者になるとき」『インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合』, pp.17-26.
- 2020 「第3章インドネシアにおける移住・家事労働者の権利保護——『技能化』と組織化」伊藤り編著, 『家事労働の国際社会学』人文書院, pp.82-107.

《学会報告・講演》

- 2019 学会報告: 「インドネシアの移住・家事労働者: 出稼ぎ、都市化、組織化」日本フェミニスト経済学会・共通論題「東南アジアの経済成長とジェンダー——女性の移動・労働・定住」、北とぴあ(東京都)、7月13日
- 2019 IGS Seminar 報告: ”Gig-economy and Unionization in Reproductive Labor” in IGS Seminar on “Gender and Development Revisited: Dialogue with Dian Elson” at Ochanomizu University、10月22日
- 2019 学会報告: ”Returning home: when Indonesian migrant domestic worker become local domestic worker” in SEASIA Biennial Conference 2019 at Academia Sinica, Taipei、12月7日

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:17K02067)「現代インドネシアにおける『移住・家事労働者』の変容」、2017～2020 年度、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 A(課題番号:19H00607)「移民受入れ国—送出国の政策相互連関——国際社会学からの比較研究」、2019～2021 年度(研究代表者:小井土彰宏・一橋大学)、研究分担者
- ・ 科学研究費基盤研究 B(課題番号:19H01578)「再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯」、2019～2021 年度(研究代表者:定松文・恵泉女学園大学)、研究分担者
- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:17K02051)「インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合」、2017～2019 年度(研究代表者:中谷潤子・大阪産業大学)、研究分担者



研究員 棚橋 訓

基幹研究院人間科学系・教授
副理事(国際担当)

文教育学部人間社会科学科教育科学コース
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース
博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

専門分野: 文化人類学、オセアニア地域研究、ジェンダー文化論、
セクシュアリティ研究

主な担当業務:ジェンダー研究所運営会議メンバー



研究員 小玉 亮子

基幹研究院人間科学系・教授
同 人間科学系長

文教育学部人間社会科学科子ども学コース
博士前期課程人間発達科学専攻保育・児童学コース
博士後期課程人間発達科学専攻保育・児童学領域

専門分野: 子ども社会学、教育学

主な担当業務:ジェンダー研究所運営会議メンバー
国際共同プロジェクト INTPART



研究員 斎藤 悦子

基幹研究院人間科学系・准教授
生活科学部生活社会科学講座

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 生活政策学コース
博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

専門分野: 生活経済学、生活経営学、企業文化論

主な担当業務:ジェンダー研究所運営会議メンバー



研究員 戸谷 陽子

基幹研究院人文科学系・教授
文教育学部言語文化学科英語圏言語文化コース

博士前期課程比較社会文化学専攻英語圏・仏語圏文化学コース
博士後期課程比較社会文化学専攻言語文化論領域

専門分野: 舞台芸術論、パフォーマンス研究、アメリカ演劇、文化政策、
比較演劇論

主な担当業務:ジェンダー研究所運営会議メンバー



客員研究員 足立 真理子

委嘱期間:2019年4月1日~2020年3月31日

研究プロジェクトタイトル

新興アジア諸国のBPO産業の成長とジェンダー:インド・フィリピン・中国の国際比較
(科学研究費基盤研究B 課題番号:17H02247)

資本と身体ジェンダー分析:資本機能の変化と『放逐』される人々

研究成果

論文掲載

足立真理子「お茶の水女子大学ジェンダー研究センターの経験 排除と過剰包摂のポリティクス」、『世界』(927)、岩波書店、2019年、pp.232-240.

足立真理子「ローザ・ルクセンブルク再審:新しい収奪の形態をめぐって」『思想』(1148)、岩波書店、2019年、pp.5-22.

シンポジウム登壇

国際基督教大学 緊急シンポジウム「学問の自由とジェンダー研究:ハンガリー政府のジェンダー研究禁止問題と日本からの応答」(2019年6月8日)

日本フェミニスト経済学会 2019年大会「東南アジアの経済成長とジェンダー:女性の移動・労働・定住」(2019年7月13日)

【事務系スタッフ】



特任リサーチフェロー 吉原 公美

主担当業務:ジェンダー研究所事務局統括
ジェンダー研究所特別招聘教授招聘事務および業務活動支援
ジェンダー研究所全体予算管理
国際共同プロジェクト INTPART ファシリテーター
各種報告書・報告データ作成
国際シンポジウム等運営 ほか



アカデミック・アシスタント 稲垣 明子

主担当業務:シンポジウム等運営関連
AIT ワークショップ事務
研究所事業事務
会計事務
書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 梅田 由紀子

主担当業務:文献収集・資料整理・附属図書館収蔵資料管理関連
IGS 史料電子化プロジェクト主任
研究所事業事務
シンポジウム等運営事務・マニュアル作成
会計事務
書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 滝 美香

主担当業務:会計事務関連
研究所事業事務
シンポジウム等運営事務
書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 和田 容子

主担当業務:成果発信関連
年次事業報告書編集
『ジェンダー研究』編集員
成果発信原稿校閲
シンポジウム等運営補佐
研究所事業事務補佐 ほか

【資料】②研究プロジェクト一覧

(I) 政治・思想とジェンダー

IGS 研究プロジェクト

「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究

【研究担当】 申琪榮 (IGS 准教授)

【研究内容】

東アジア地域はその経済発展の成果により国際的に注目されているが、政治の民主化の道筋は一様ではない。本研究プロジェクトでは、日本、韓国、台湾の民主主義の有り様と政治代表性の関係について、ジェンダー視点に立脚した国際共同研究により比較分析する。議員を対象としたアンケート調査、政党、議員、市民社会関係者へのインタビューや現地でのフィールドワークを実施するほか、定期的な国際シンポジウムや研究集会を開き、研究交流を促進する。東アジア地域において、政治代表性の男性優位性が続くメカニズムを明らかにし、政治制度におけるジェンダー公平性・多様性を実現させる政策も検討する。

2019年にはECPG(European Conference on Politics and Gender)で3カ国の研究者が集って研究成果を点検した。3カ国の議員アンケートの結果を分析した研究論文を学術雑誌に掲載したほか、今後も3カ国比較の共同研究成果を発表していく予定である。また、政治分野に限らず東アジアの#MeToo運動の広がりについても共同研究を進めた。2019年度からは[科研費 C ジェンダークオータの政治学:制度化と抵抗](本報告書 20 頁参照)が採択され、さらに充実した研究が進められるようになった。(本報告書 18 頁参照)

科学研究費基盤研究 B(研究課題番号 18H00817)

女性の政治参画の障壁:国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査

【研究代表者】三浦まり(上智大学教授)

【研究分担者】申琪榮(IGS 准教授)、Noble Gregory(東京大学教授)、スティール若希(東京大学准教授)、MCELWAIN KENNETH(東京大学准教授)、大山礼子(駒澤大学教授)

【期間】2018～2020 年度

【研究内容】

女性の政治参画に対する障壁を国会議員および主要政党の都道府県支部への調査を通じて明らかにする。国際的な研究成果に基づいて、とりわけ「政党の候補者リクルートメントと公認決定過程」に焦点をあて、郵送調査と政党関係者へのインタビュー調査を組み合わせ、政治参画に関する男女差、政党差、地方差はどのように見られるかを考察する。

2019 年は前年実施した国会議員アンケートの結果を国際学会で報告した。また、県連へのヒアリングを始めた。さらに、上智大学にて地方政治や県議会に関する研究会を数回開催した。(本報告書 19 頁参照)

科学研究費基盤研究 C(研究課題番号 19K12604)

ジェンダークオータの政治学:制度化と抵抗

【研究代表者】申琪榮 (IGS 准教授)

【期間】2019～2021 年度

【研究内容】

本研究は、議会のジェンダー公平な代表性を確保するために導入されたジェンダー・クオータ(女性候補者割当制)の効果と、その制度が女性の政治的的代表性に及ぼす影響を韓国の事例により分析するものである。1年目の 2019 年度は、候補者リクルートメント過程におけるジェンダー・クオータ制度の運用実態を明らかにするために、データ収集、聞き取り調査を実施し、制度運用状況を評価した。

研究成果は、東アジアの研究者らとパネルを組み European Conference on Politics and Gender (ECPG)にて報告した(2019 年 7 月アムステルダム)。11 月には内閣府の国際調査研究に参加する機会を得て、韓国における女性議員の参画状況とクオータ法について現地調査を行った。国会議員、中央選挙委員会、国会調査員、政党関係者、女性団体、専門家などにインタビューを行い、最新のデータを入手するとともにクオータ法、選挙法の運用について聞き取り調査を実施することができた。その詳しい内容は、内閣府の報告書にまとめた。

また、国際共同研究で実施した韓国の議員アンケートデータを分析し、これまで韓国のクオータ法が思ったほどの成果を出していない理由を、法律の側面と議員の認識の側面双方から分析した論文を韓国の学術雑誌に発表した(2019 年 12 月)。その他、2020 年 4 月に実施された韓国の総選挙に至るまでの、選挙法改正や候補者リクルート関連のデータ、「女性の党」の誕生などに関するデータを収集した。(本報告書 20 頁参照)

IGS 研究プロジェクト

「東アジアの越境的女性運動」研究

【研究担当】大橋史恵 (IGS 准教授)

【研究内容】

今日の女性運動は、路上や広場、公共交通機関、大学キャンパス、議場、ジャーナリズム、サイバー空間など、さまざまな場で実践され、課題解決に向けた国際的連帯とアクションを生み出している。本研究は東アジアにおけるそのような越境的女性運動の展開について考察するものである。具体的には(1)ILO「家事労働者のためのディーセント・ワークに関する条約」(第 189 号条約)に関連する労働運動、(2)反軍事化をめぐる女性たちの運動、(3)中国の女権主義者たちのトランスローカル/トランスナショナルな運動に目を向ける。(本報告書 21 頁参照)

IGS 研究プロジェクト

リベラル・フェミニズムの再検討

【研究担当】板井広明 (IGS 特任講師)

【研究内容】

本研究プロジェクトの目的は、ベンサムやウルストンクラフト、J.S.ミルといった第1波フェミニズムあるいはリベラル・フェミニズムの思想・運動を再検討することにある。リベラリズムの公私二元論を前提にしたリベラル・フェミニズムは乗り越えの対象でしかないという捉え方が一般的だが、リベラリズムにおいて、「公」に対する「私」の領域は単に個人的自由の空間であると放任されるのではなく、不正義が存在すれば介入が正当化される空間でもあった。本研究では、ベンサムの女性論に関する草稿研究と、J.S.ミルの The Subjection of Women, 1869 のテキスト読解と『女性の隷従』新訳の作業を進め、リベラル・フェミニズム再検討の機運を盛り上げることを狙う。(本報告書 22 頁参照)

科学研究費基盤研究 C(研究課題番号 19K01570)

18 世紀末ブリテンにおける女性論の諸相: 功利主義的フェミニズムの可能性

【研究代表者】板井広明 (IGS 特任講師)

【期間】2019～2021 年度

【研究内容】

本研究は特に J.ベンサム的女性論と家族論を中心に、18～19 世紀の功利主義フェミニズムの諸相を明らかにする。従来看過されがちであった功利主義哲学の論理とフェミニズム思想の関わりを明らかにするために、「最大多数の最大幸福」を標語に社会改革を構想したベンサムが、各人の幸福最大化のために、両性への平等な権利付与、女性に抑圧的な社会に存在する権力関係の改革、期限付き結婚制度の確立を主張するに至った思想形成過程を考察する。このようにしてベンサムの功利主義フェミニズムを『新ベンサム全集』の最新テキストや未公開の草稿から再構成し、19 世紀の多様なフェミニズムに対する功利主義の思想的インパクトを明らかにする。(本報告書 23 頁参照)

(Ⅱ) 生殖・身体とジェンダー

IGS 研究プロジェクト

生殖医療とジェンダー

【研究担当】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【研究内容】

生殖医療は大きく①望まない妊娠や出産を回避するための医療技術(避妊・人工妊娠中絶)、②妊娠・出産を望みながら通常の生殖行為ではそれが叶わない者を支援するための医療技術(不妊治療、生殖補助技術)、③生まれてくる命を選別する医療技術(出生前診断・産み分けなど)の 3 つに分けることができる。生殖医療の進歩はめざましく、第三者の精子や卵子、代理出産を利用した生殖医療技術の是非について社会や専門家集団の間での検討が不十分なまま、一般社会での利用が広まりつつある。また生殖医療の問題は産む性である女性たちに焦点を当て議論されることが多いが、男性の存在にも目を向ける必要がある。そこで 2019 年は不妊治療や出生前検査に関連する問題を男性側の視点からも掘り下げ、さらに避妊や中絶をめぐる問題や性別二元制規範にも目を向け、プロジェクトをすすめた。(本報告書 26 頁参照)

IGS 研究プロジェクト

性に関する情報と実践—性教育に関する研究

【研究担当】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)、

【研究内容】

世界的に子どもへの性教育は不可欠であるという考え方が浸透しつつある。国連が発表している *International Technical Guidance on Sexuality Education* でも、正確な性教育はリスクある性行動を減少させる効果があると述べられている。日本でも性教育の重要性が認識されるようになってきてはいるが、今なお、性教育の中で「性交」「避妊」「中絶」などを取り上げることに対して抵抗感を持つ政治家や専門家が存在し、それが子どもの性行動の現実在即した性教育の足かせともなっている。また性的マイノリティの人々の存在や状況、不妊の現実を性教育の中でとりあげているところもまだ少なく、とりあげても一部の情報にすぎない場合もある。これらは子どもたちの人生においても重要な情報であり、これからの性教育のあり方を考える上で大きな課題となっている。(本報告書 27 頁参照)

科学研究費基盤研究C（研究課題番号 18K00034）

諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究

【研究代表者】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【期間】2018～2020 年度

【研究内容】

日本の精子提供はこれまで匿名で実施されてきた。近年、卵子提供にも注目が集まる中、ドナーの匿名性の是非について議論される機会がこれまで以上に増えると予測される。本研究は国内での議論に向けて、出生者の出自を知る権利を法で保障する国について、法制定までにどのような議論があったか、および法施行後の状況を明らかにするものである。(本報告書 28 頁参照)

科学研究費基盤研究C（研究課題番号 16K12111）

AID で生まれた人の「出自を知る権利」を保障するための教材作成に関する研究

【研究代表者】清水清美 (城西国際大学教授)

【研究分担者】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【期間】2016～2019 年度

【研究内容】

日本では提供精子による人工授精が 70 年以上も実施され、精子提供者は匿名を原則としてきた。しかし諸外国では、子の福祉を考慮し、ドナーの匿名性を廃止する動きが広がっている。本研究は精子提供の利用や精子ドナーになることを検討している人が、出生者の出自を知る権利の保障の重要性を理解できるような資料の作成を最終目的とする。(本報告書 29 頁参照)

公益財団法人トヨタ財団 2016 年度研究助成プログラム(B)個人研究助成

生殖補助技術で形成される家族についての研究

【研究担当】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【期間】2017～2019 年度

【研究内容】

近年、日本でも、生殖補助医療がますます一般化し、技術の需要も技術での出生児数も年々増加している。本研究では特に、第三者が介入する生殖技術で形成された家族について、国内外の家族へのインタビューを通して、家族の成り立ちを子どもたちとどのように共有し、家族関係を築いているのかを探る。(本報告書 30 頁参照)

(Ⅲ) 経済・移動とジェンダー

IGS 研究プロジェクト

資本と身体ジェンダー分析: 資本機能の変化と『放逐』される人々

【研究担当】足立眞理子 (IGS 客員研究員)

【メンバー】大橋史恵 (IGS 准教授)、板井広明 (IGS 特任講師)

【研究内容】

本プロジェクト「資本と身体ジェンダー分析: 資本機能の変化と『放逐』される人々」は、グローバル金融危機以降の資本の中核機能の変化を分析する。サスキア・サッセンの「放逐 expulsions」概念に着目して、従来の身体断片化や排除／包摂の概念では把握不能な「放逐」の「常態化」をジェンダー分析の視点から行う。(本報告書 32 頁参照)

科学研究費基盤研究 B (研究課題番号 17H02247)

新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー: インド・フィリピン・中国の国際比較

【研究代表者】堀芳枝(獨協大学教授)

【研究分担者】大橋史恵(IGS 准教授)、足立真理子(IGS 教授)、長田華子(茨城大学准教授)、
落合絵美(岐阜大学特任助教)、小松寛(千葉大学特任研究員)

【期間】2017～2019 年度

【研究内容】

本研究は 2000 年代に入ってフィリピン、インド、中国でサービス部門の国際分業として展開し始めているビジネス・プロセス・アウトソーシング(BPO)の国際資本移転の動向と女性の労働、社会変容についての国際比較をおこなう。最終的には新興アジアのサービス部門の国際分業論の構築をめざす。(本報告書 33 頁参照)

科学研究費基盤研究 B(研究課題番号 19H01578)

再生産領域の国際性別分業における日本の家事・ケア労働者の歴史的系譜と連帯

【研究代表者】定松文(恵泉女学園大学教授)

【研究分担者】小ヶ谷千穂(フェリス女学院大学教授)、大橋史恵(IGS 准教授)

平野恵子(IGS 特任リサーチフェロー)、伊藤るり(津田塾大学教授)、徐阿貴(福岡女子大学准教授)

【期間】2019～2021 年度

【研究内容】

本研究は、再生産労働の国際分業が進展する日本において、次の二点に焦点を当て実証的に検討する。第一に歴史的視点からの雇用主—派遣企業—労働者の非対称的な関係、第二に家事・ケア労働者が有する限定的社会関係資本から選択する行為や集合行為による、労働者を取り巻く制度の変容。(本報告書 34 頁参照)

科学研究費基盤研究 C (研究課題番号 19K12603)

香港における移住女性の再生産労働力配置:「グローバル・シティ」のジェンダー分析

【研究代表者】大橋史恵(IGS 准教授)

【期間】2019～2021 年度

【研究内容】

本研究は、香港社会において異なる移住女性による再生産労働力がどのように配置されてきたかを、中国人家事労働者と外国籍家事労働者およびその雇用主を対象としたオーラル・ヒストリーの聞き取りから明らかにするものである。香港が輸出志向工業化路線から東アジアの金融・貿易サービスの中枢を成す「グローバル・シティ」へと転換した時期は、外国籍の家事労働者の受け入れが拡大していくとともに、主に広東省に出自をもつ中国人女性の労働力配置に変化が生じた時期と重なる。1980 年代末から今日までの香港の社会経済構造の変動において、トランスナショナルにあるいはトランスローカルに移動して家事労働者になった女性たちはどのように受け入れられたのか。異なるケアの担い手たち(移住女性)と受け手たち(雇用主)の「ケアの記憶」を通じて香港の再生産領域の変化をとらえたい。

初年度にあたる 2019 年度は、香港における民主化運動の激化と重なり、「ケアの記憶」についての聞き取りは実現しなかった。しかしアーカイブでの調査を通じて新たな知見を獲得するに至り、その成果を 2020 年 2 月に刊行された『家事労働の国際社会学』所収の論文に部分的に反映させることができた。する。(本報告書 35 頁参照)

IGS 研究プロジェクト

送出し国から見た国際労働力移動のジェンダー分析

【研究担当】平野恵子 (IGS 特任リサーチフェロー)

【研究内容】

国際労働力移動は、グローバルな政治経済状況や受入国における移民政策のみならず、送出し国の政治、経済、文化といった種々の要因に規定される。本研究では、二つの事例研究から、送出し国からみた国際労働力移動を考える。具体的には、1) 墨米間の労働力移動、2) 2019 年インドネシア選挙(大統領選挙、総選挙)における海外雇用政策の争点化。(本報告書 36 頁参照)

科学研究費基盤研究 A(研究課題番号 19H00607)

移民受入れ国-送出し国の政策相互連関: 国際社会学からの比較研究

【研究代表者】小井土彰宏(一橋大学教授)

【研究分担者】伊藤るり(津田塾大学教授)、上林千恵子(法政大学教授)、鈴木江理子(国士舘大学教授)、塩原良和(慶應義塾大学教授)、宣元錫(大阪経済法科大学等研究員)、柄谷利恵子(関西大学教授)、定松文(恵泉女学園大学教授)、園部裕子(香川大学教授)、森千香子(同志社大学教授)、北川将之(神戸女学院大学教授)、毛利さとみ(恵羅さとみ)(成蹊大学研究員)、眞住優助(金沢大学講師)、堀井里子(国際教養大学助教)、平野恵子(IGS 特任リサーチフェロー)

【期間】2019～2021 年度

【研究内容】

本研究は、移民をめぐる諸問題を、受入れ国および送出し国における諸政策の動的連関が及ぼす影響から考察する。分担者は、インドネシアの海外雇用政策分析を担当し、2019 年度は、労働省など政策担当者に聞き取りを実施する。(本報告書 37 頁参照)

科学研究費基盤研究 C (研究課題番号 17K02067)

現代インドネシアにおける『移住・家事労働者』の変容

【研究代表者】平野恵子(IGS 研究協力員)

【期間】2017～2020 年度

【研究内容】

本研究は、インドネシアにおける「移住・家事労働者」の変容を、移民政策および国内家事労働者の派遣形態の変化から検討する。

本研究の 3 年目にあたる 2019 年度は、2 年目までに得られた知見を学術誌論文や書籍所収論文において発表するとともに、暫定的な調査知見を学会にて報告し今後の研究につなげるためのフィードバックを得た。また、本研究の調査課題のうち、①移住・家事労働者を「技能化」することの含意、②新中間層をターゲットとした新たな派遣型家事労働サービスについて、インタビュー調査および現地の観察を実施した。(本報告書 38 頁参照)

科学研究費基盤研究 C (研究課題番号 17K02051)

インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合

【研究代表者】中谷潤子(大阪産業大学准教授)

【研究分担者】平野恵子(IGS 特任リサーチフェロー)、北村由美(京都大学准教授)

【期間】2017～2019 年度

【研究内容】

本研究は、インドネシア人移住労働者の再統合について、帰還後のライフステージ構築の過程を、本人や家族、コミュニティメンバーへの聞き取り調査をもとに明らかにする。分担者(平野)は特に、ジャカルタ首都圏における家事労働者組合で、移住家事労働を経験する組合員に帰還後の職業選択につき聞き取りをおこない上記課題を明らかにした。

最終年度である 2019 年は、Academia Sinica(台北)において共同パネル報告を実施するとともに、3 年間の成果を報告書『インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合』にまとめ刊行した。(本報告書 39 頁参照)

外国人特別招聘教授による研究プロジェクト

Maiko: Imagining Geisha Girlhood in Japan

【研究担当】ジャン・バーズレイ(Jan Bardsley、米・ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授)

【研究内容】

平成時代の日本における「舞妓らしさ」の研究。平成時代の舞妓イメージは、かつての人身売買や搾取という暗い影を拭き去り、「カワイイ」京都のマスコットキャラクターとなっている。「舞妓らしさ」は京都の若い女性の理想像として語られ、舞妓をめざす少女たちはその理想像を体現することが期待される。その一方で、京都の観光局や、花街、漫画作家たちは、それぞれに異なる「舞妓らしさ」像を提供している。本研究は、商品デザインや、漫画作品、ライトノベルなどに描かれる「舞妓らしさ」を読み解き、現代の舞妓に期待されているジェンダー役割について分析する。(本報告書 90 頁参照)

Democracy's Poster Girls: Beauty Queens and Fashion Models in Cold War Japan

【研究担当】ジャン・バーズレイ(Jan Bardsley、米・ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授)

【研究内容】

冷戦初期の日本において盛んに開催された、ファッションショー、ビューティーコンテスト、デザインコンクールなどは、国際的交流を推進する文化活動であると同時に、女性の解放や民主主義、自由といった、戦後の社会改革の政治理念を象徴するイベントでもあった。本研究は、米国の占領下の日本で、ファッションが西側イデオロギーの浸透に果たした役割について分析する。(本報告書 90 頁参照)

【資料】③協力研究者一覧

氏名・所属	協力事業*	参照
【海外】		
ジャン・バーズレイ (Jan Bardsley) ノースカロライナ大学チャペルヒル校・米	特別招聘教授 (シ) 哲学者と皇太子妃 (シ) 踊る中国 (セ) 冷戦初期の日本におけるファッションショー外交 『ジェンダー研究』編集委員	89 頁 47 頁 53 頁 56 頁 131 頁
ナエル・バンジー (Nael Bhanji) トレント大学・カナダ	(シ) トランスジェンダーが問うてきたこと (セ) トランスジェンダーが問うてきたこと	50 頁 83 頁
ジェニファー・ブロンラ (Jennifer Branlat) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED) (連) INTPART プロジェクト	103 頁 114 頁
アン・ブルノン＝エルンスト (Anne Brunon-Ernst) パンテオン・アサス大学・仏	(セ) A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives	70 頁
ジュリア・ブロック (Julia C. Bullock) エモリー大学・米	(シ) 哲学者と皇太子妃	47 頁
チェ・ヒュンジョン (Hyeunjung CHOI) 済州平和研究院・韓	(セ) Shared Visions for Korea-Japan Relations	80 頁
ド・ジョンユン (Jong Yoon DOH) 済州平和研究院・韓	(セ) Shared Visions for Korea-Japan Relations	80 頁
ダイアン・エルソン (Diane Elson) エセックス大学・英	(セ) Gender and Development Revisited	62 頁
ハン・ドンギョン (Dong-Gyoon HAN) 済州平和研究院・韓	(セ) Shared Visions for Korea-Japan Relations	80 頁
ハン・インテク (Intaek HAN) 済州平和研究院・韓	(セ) Shared Visions for Korea-Japan Relations	80 頁
フランス・ローズ・ハートライン (France Rose Hartline) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(セ) Legal Gender Recognition & Messy Trans Experiences in Norway (INTPART) (連) INTPART プロジェクト	64 頁 114 頁
レスリー・ホガート (Lesley Hoggart) オープン大学・英	(セ) Exploring How Women's Contraceptive Choices Can Be Influenced by Their Views on Abortion	84 頁
グロ・クリステンセン (Guro Kristensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED) (連) INTPART プロジェクト	103 頁 114 頁
日下部京子 (Kyoko Kusakabe) アジア工科大学院大学・タイ	(連) AIT ワークショップ	107 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
ガブリエル・ラディカ (Gabrielle Radica) リール大学・仏	(セ) A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives	70 頁
プリシラ・リングローズ (Priscilla Ringrose) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED) (連) INTPART プロジェクト	103 頁 114 頁
カレン・アン・シャイア (Karen Ann Shire) デュースブルグ・エッセン大学・独	『ジェンダー研究』編集委員	131 頁
オフェリ・スイミオン (Ophélie Siméon) ソルボンヌ・ヌーヴェル大学・仏	(セ) A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives	70 頁
アニ・ウィダヤニ・スチプト (Ani Widyani Soetjipto) インドネシア大学・インドネシア	(セ) Gender and Politics in Indonesia after 2019 Election	73 頁
ソン・ジョンウク (Jung Wook SON) 済州平和研究院・韓	(セ) Shared Visions for Korea-Japan Relations	80 頁
シリ・エイスレボ・ソレンセン (Siri Øyslebø Sørensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED) (連) INTPART プロジェクト	103 頁 114 頁
スーザン・ストライカー (Susan Stryker) イエール大学・米	(シ) トランスジェンダーが問うてきたこと (セ) トランスジェンダーが問うてきたこと	50 頁 83 頁
游鑑明 (ユウ・カンメイ) (Jianming Yu) 中央研究院近代史研究所・台湾	(シ) 踊る中国	53 頁
【国内】		
井谷聡子 (Satoko Itani) 関西大学	(シ) トランスジェンダーが問うてきたこと (セ) トランスジェンダーが問うてきたこと	50 頁 83 頁
江上幸子 (Sachiko Egami) 中国女性史研究会／フェリス女学院大学	(シ) 踊る中国	53 頁
大濱慶子 (Keiko Ohama) 神戸学院大学	(シ) 踊る中国	53 頁
重田園江 (Sonoe OMODA) 明治大学	(セ) A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives	70 頁
小浜正子 (Masako Obama) 日本大学	『ジェンダー研究』編集委員	131 頁
金井郁 (Kaoru Kanai) 埼玉大学	『ジェンダー研究』編集委員	131 頁
菅野 琴 (Koto KANNO) 関西学院大学／国立女性教育会館	(セ) 持続可能な社会をめざすエンパワメントの教育	68 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
北村文 (Aya Kitamura) 津田塾大学	(シ) 哲学者と皇太子妃	47 頁
斎藤圭介 (Keisuke Saito) 岡山大学	(セ) 生殖医療技術と男性性	58 頁
清水晶子 (Akiko Shimizu) 東京大学	(シ) トランスジェンダーが問うてきたこと (セ) トランスジェンダーが問うてきたこと	50 頁 83 頁
菅野摂子 (Setsuko Sugano) 立教大学	(セ) 生殖医療技術と男性性	58 頁
関口佐紀 (Saki SEKIGUCHI) 早稲田大学・院	(セ) A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives	70 頁
中村雪子 (Yukiko Nakamura) 和光大学ほか	(セ) Gender and Development Revisited	62 頁
永見瑞木 (mizuki nagami) 大阪府立大学	(セ) コンドルセの政治社会像と女性への視点	78 頁
平石耕 (Ko HIRAISHI) 成蹊大学	(セ) J.S.ミルにおけるデモクラシーと女性参政権	60 頁
深貝保則 (Yasunori FUKAGAI) 横浜国立大学	(セ) A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives	70 頁
星野幸代 (Yukiyo Hoshino) 名古屋大学	(シ) 踊る中国	53 頁
前山加奈子 (Kanakano Maeyama) 中国女性史研究会/駿河台大学	(シ) 踊る中国	53 頁
三浦まり (Mari Miura) 上智大学	『ジェンダー研究』編集委員	131 頁
三牧聖子 (Seiko Mimaki) 高崎経済大学	(セ) Shared Visions for Korea-Japan Relations	80 頁
村田陽 (Minami MURATA) 同志社大学	(セ) J.S.ミルにおけるデモクラシーと女性参政権	60 頁
山尾忠弘 (Tadahiro YAMAOKA) 慶應義塾大学・院	(セ) J.S.ミルにおけるデモクラシーと女性参政権	60 頁
ゲイ・ローリー (Gaye Rowley) 早稲田大学	(シ) 哲学者と皇太子妃	47 頁
渡辺浩 (Hiroshi WATANABE) 東京大学	(セ) 日本における女らしさの表象	66 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
【学内】		
佐々木泰子 (Yasuko Sasaki) グローバル女性リーダー育成研究機構	(セ) Shared Visions for Korea-Japan Relations	80 頁
小林誠 (Makoto Kobayashi) グローバルリーダーシップ研究所	(セ) Shared Visions for Korea-Japan Relations	80 頁
高桑晴子 (Haruko TAKAKUWA)	(セ) A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives	70 頁
天野知香 (Chika Amano) 基幹研究院文化科学系	『ジェンダー研究』編集委員	131 頁
水野勲 (Chika Amano) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	131 頁
森義仁 (Yoshihito Mori) 基幹研究院自然・応用科学系	『ジェンダー研究』編集委員	131 頁
倉光ミナ子 (Minako Kuramitsu) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	131 頁
石丸径一郎 (Keiichiro Ishimaru) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員 (シ) トランスジェンダーが問うてきたこと (セ) トランスジェンダーが問うてきたこと (セ) 性別二元制規範を考える	131 頁 50 頁 83 頁 76 頁
大木直子 (Naoko Oki) グローバルリーダーシップ研究所	(セ) Gender and Politics in Indonesia after 2019 Election	73 頁
佐野潤子 (Junko Sano) グローバルリーダーシップ研究所	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED) (連) INTPART プロジェクト	103 頁 114 頁
松田デレク (Derek Matsuda) 国際教育センター	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED) (連) INTPART プロジェクト	103 頁 114 頁
李亜姣(リー・ヤージャオ) (Yajiao Li) みがかずば研究員	(セ) Gender and Development Revisited	62 頁
本山央子 (Hisako Motoyama) お茶の水女子大学(院)	(セ) Shared Visions for Korea-Japan Relations	80 頁
長谷川渚紗 (Nagisa Hasegawa) お茶の水女子大学(院)	(セ) 性別二元制規範を考える	76 頁

* (シ) シンポジウム、(セ) セミナー・研究会、(国) 国際共同研究プロジェクト、(連) 国際ネットワーク

【資料】④国際シンポジウム・セミナー・研究会一覧

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 国際シンポジウム		
5/19	<p>国際シンポジウム〔特別招聘教授プロジェクト〕</p> <p>哲学者と皇太子妃:冷戦期日本における自由と愛と民主主義</p> <p>The Philosopher and the Princess: Freedom, Love, and Democracy in Cold War Japan</p> <p>【コーディネーター】ジャン・バーズレイ(IGS 特別招聘教授/ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授)</p> <p>【司会】大橋史恵(IGS 准教授)</p> <p>【基調報告】ジャン・バーズレイ ジュリア・ブロック(エモリー大学准教授)</p> <p>【コメンテーター】北村文(津田塾大学講師) ゲイ・ローリー(早稲田大学教授)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【言語】日英(同時通訳)</p> <p>【参加者数】72名</p>	47 頁
12/15	<p>国際シンポジウム</p> <p>トランスジェンダーが問うてきたこと:身体・人種・アイデンティティ</p> <p>Transgender Questions: Body, Race and Identity</p> <p>【総合司会】申琪榮(IGS 准教授)</p> <p>【挨拶】石井クツ昌子(お茶の水女子大学教授/IGS 所長)</p> <p>【基調講演】スーザン・ストライカー(イエール大学学長フェロー/女性・ジェンダー・セクシュアリティ研究招聘教授)</p> <p>【パネル司会】石丸径一郎(お茶の水女子大学准教授)</p> <p>【パネリスト】清水晶子(東京大学教授) 井谷聡子(関西大学准教授) ナエル・バンジー(トレント大学助教授)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【共催】東京大学清水晶子研究室、科研費 挑戦的萌芽研究「性的少数者の政治と多様な諸身体の変遷 および共存をめぐる現状分析と理論構築」</p> <p>【言語】日英(同時通訳)</p> <p>【参加者数】119名</p>	50 頁
IGS 共催 国際シンポジウム		
6/22	<p>国際シンポジウム</p> <p>踊る中国:都市空間における身体とジェンダー</p> <p>舞動的中國:城市空間的體與性別</p> <p>【コーディネーター/司会】大橋史恵(IGS 准教授)</p> <p>【趣旨説明】前山加奈子(中国女性史研究会)</p> <p>【研究報告】游鑑明(中央研究院近代史研究所) 星野幸代(名古屋大学人文学研究科教授) 大濱慶子(神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部教授)</p> <p>【コメンテーター】ジャン・バーズレイ(IGS 特別招聘教授/ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授) 江上幸子(中国女性史研究会/フェリス女学院大学国際交流学部名誉教授)</p> <p>【共催】ジェンダー研究所</p> <p>【言語】日中(逐次通訳)</p> <p>【参加者数】67名</p>	53 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
7/10	〔特別招聘教授プロジェクト〕 Fashion Show Diplomacy in Early Cold War Japan : A Critical Feminist Perspective (冷戦初期の日本におけるファッションショー外交:フェミニスト視点からの批判的考察) 【講師】ジャン・バーズレイ(IGS 特別招聘教授/ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】英語 【参加者数】16名	56 頁
7/26	生殖領域シリーズ 生殖医療技術と男性性 【コーディネーター/司会】仙波由加里(IGS 特任リサーチフェロー) 【趣旨説明】仙波由加里 【研究報告】菅野摂子(立教大学社会福祉研究所特任研究員) 斎藤圭介(岡山大学准教授) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】40名	58 頁
10/7	J.S.ミルにおけるデモクラシーと女性参政権 【司会】板井広明(IGS 特任講師) 【報告】山尾忠弘(慶應義塾大学・院) 【討論者】村田陽(同志社大学助教) 平石耕(成蹊大学教授) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】10名	60 頁
10/22	Gender and Development Revisited : Dialogues with Diane Elson (「ジェンダーと開発」を問い直す:ダイアン・エルソンとの対話) 【司会】大橋史恵(IGS 准教授) 【講師】ダイアン・エルソン(エセックス大学名誉教授) 【討論者】李亜姣(お茶の水女子大学学みがかずば研究員) 中村雪子(和光大学等非常勤講師) 平野恵子(IGS 特任リサーチフェロー) 【主催】ジェンダー研究所 【協賛】日本フェミニスト経済学会(JAFFE) 【後援】経済理論学会問題別分科会「ジェンダー」 【協力】FFU(フェミニスト自由大★学) 【言語】英語 【参加者数】30名	62 頁
10/24	〔INTPART プロジェクト〕 Legal Gender Recognition & Messy Trans Experiences in Norway (ノルウェーの性別自己決定権法制とトランスジェンダーの経験の複雑性) 【講師】フランス・ローズ・ハートライン(ノルウェー科学技術大学博士後期課程) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】英語 【参加者数】18名	64 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
10/28	<p>日本における女らしさの表象</p> <p>【司会】板井広明 (IGS 特任講師)</p> <p>【報告】渡辺浩 (東京大学名誉教授)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【参加者数】54 名</p>	66 頁
12/11	<p>持続可能な社会をめざすエンパワメントの教育:ジェンダーの視点から</p> <p>【司会】板井広明 (IGS 特任講師)</p> <p>【講師】</p> <p>菅野琴 (元ユネスコ職員ネパール事務所代表、関西学院大学特別客員教授、国立女性教育会館客員研究員)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【参加者数】17 名</p>	68 頁
1/30	<p>A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives : Family, Society, and Gender (フランスの視点からの思想史ワークショップ:家族、社会、ジェンダー)</p> <p>【モデレーター】板井広明 (IGS 特任講師)</p> <p>深貝保則 (横浜国立大学教授)</p> <p>【報告者】ガブリエル・ラディカ (リール大学教授、横浜国立大学客員教授)</p> <p>アン・ブルノン＝エルンスト (バンテオン・アサス大学教授)</p> <p>オフェリ・スミオン (ソルボンヌ・ヌーヴェル大学准教授)</p> <p>【討論者】関口佐紀 (早稲田大学博士課程)</p> <p>重田園江 (明治大学教授)</p> <p>高桑晴子 (お茶の水女子大学教授)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【共催】科研費基盤 (C)「近代英米の法の支配伝統の再検討:わが国への示唆」(戒能通弘・同志社大学)、科研費基盤 (C)「18 世紀末ブリテンにおける女性論の諸相:功利主義的フェミニズムの可能性」(板井広明・お茶の水女子大学)</p> <p>【言語】英語</p> <p>【参加者数】21 名</p>	70 頁
1/30	<p>Gender and Politics in Indonesia after 2019 Election (インドネシアにおけるジェンダーと政治:2019 年総選挙分析)</p> <p>【講師】Dr. Ani Widayani Soetjipto (インドネシア大学准教授)</p> <p>【ディスカッサント】大木直子 (お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所特任講師)</p> <p>【司会】平野恵子 (IGS 特任リサーチフェロー)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【言語】英語</p> <p>【参加者数】15 名</p>	73 頁
2/12	<p>生殖領域シリーズ</p> <p>映画『性別が、ない!』上映&パネルディスカッション</p> <p>性別二元制規範を考える</p> <p>【パネリスト】石丸径一郎 (お茶の水女子大学准教授)</p> <p>藤原和希 (label X 代表)</p> <p>長谷川渚紗 (お茶の水女子大学大学院博士課程人間文化創成科学研究科)</p> <p>【モデレーター】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【参加者数】47 名</p>	76 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
2/14	<p>コンドルセの政治社会像と女性への視点</p> <p>【司会】板井広明(IGS 特任講師)</p> <p>【報告者】永見瑞木(大阪府立大学講師)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【参加者数】10名</p>	78 頁
IGS 主催 IGS 研究会		
11/18	<p>Shared Visions for Korea-Japan Relations : Globalism, Peace, and Gender Issue (グローバル化と平和)</p> <p>【開会挨拶】佐々木泰子(お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構長)</p> <p>Session 1 Globalism and Peace</p> <p>【司会】小林誠(グローバルリーダーシップ研究所長)</p> <p>【報告】三牧聖子(高崎経済大学准教授)</p> <p>HAN Intaek (済州平和研究院研究員)</p> <p>【ディスカッサント】SON Jung Wook(済州平和研究院研究員)</p> <p>HAN Dong-Gyoon(済州平和研究院研究員)</p> <p>Session 2 Globalism and Gender Issues</p> <p>【司会】板井広明(IGS 特任講師)</p> <p>【報告】CHOI Hyeunjung(済州平和研究院研究員)</p> <p>本山央子(お茶の水女子大学ジェンダー学際研究専攻)</p> <p>【ディスカッサント】申琪榮(IGS 准教授)</p> <p>DOH Jong Yoon(済州平和研究院研究員)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所、韓国・済州平和研究院</p> <p>【言語】英語</p> <p>【参加者数】12名</p>	80 頁
12/16	<p>お茶大・東大院生合同セミナー</p> <p>トランスジェンダーが問うてきたこと: 身体・人種・アイデンティティ</p> <p>【ファシリテーター】申琪榮(IGS 准教授)</p> <p>【パネリスト】</p> <p>スーザン・ストライカー(イエール大学・学長フェロー/女性・ジェンダー・セクシュアリティ研究招聘教授)</p> <p>ナエル・バンジー(トレント大学助教授)</p> <p>清水晶子(東京大学教授)</p> <p>井谷聡子(関西大学准教授)</p> <p>石丸径一郎(お茶の水女子大学准教授)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【共催】東京大学清水晶子研究室、科研費 挑戦的萌芽研究「性的少数者の政治と多様な諸身体の連帯および共存をめぐる現状分析と理論構築」</p> <p>【使用言語】英語</p> <p>【参加者数】25名</p>	83 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
1/24	<p>Exploring How Women's Contraceptive Choices Can Be Influenced by Their Views on Abortion</p> <p>【報告】レスリー・ホガート(オープン大学教授) 仙波由加里(IGS 特任リサーチフェロー)</p> <p>【コーディネーター】大橋史恵(ジェンダー研究所准教授)</p> <p>【主催】ジェンダー研究所</p> <p>【使用言語】英語</p> <p>【参加者数】5 名</p>	84 頁
後援シンポジウム		
7/13	<p>日本フェミニスト経済学会 2019 年大会</p> <p>東南アジアの経済成長とジェンダー: 女性の移動・労働・定住</p> <p>【共通論題座長】堀芳枝(獨協大学教授)</p> <p>【報告者】堀芳枝(獨協大学教授) 平野恵子(IGS 特任リサーチフェロー) 巢内尚子(ラバル大学) Nagase Agalyn Salah (Kafin)</p> <p>【討論者】足立真理子(IGS 客員研究員) 大橋史恵(IGS 准教授)</p> <p>【主催】日本フェミニスト経済学会</p> <p>【後援】ジェンダー研究所、大阪府立大学女性学研究センター</p> <p>【言語】日英(要約通訳)</p>	86 頁

【資料】⑤2019 年度新規収蔵図書・資料

・2019 年度、外部からの寄贈により以下の書籍が新規収蔵された。[寄贈者名『書名』(著者名)](敬称略)

伊藤るり『家事労働の国際社会学:ディーセント・ワークを求めて』(伊藤るり編著;定松文[ほか]著)／桜蔭会『白塔選集』(白塔短歌会)／京都大学出版会『一人っ子政策と中国社会』(小浜正子)／京都大学出版会『衣装と生きる女性たち:ミャオ族の物質文化と母娘関係』(佐藤若菜)／倉橋耕平『歪む社会:歴史修正主義の台頭と虚妄の愛国に抗う』(安田浩一、倉橋耕平)／仙波由加里『いまを生きるための倫理学』(盛永審一郎、松島哲久、小出泰士編)／仙波由加里『血のつながりを越えて:提供精子・提供卵子・養子でできた家族の物語』(仙波由加里)／鳥取近世女性史研究会『ある勤番侍と妻の書状:語られる生活・家族の絆』(鳥取近世女性史研究会編)／鳥取近世女性史研究会『ある若き儒者の書状:女性史の視点でよむ』(堀庄次郎、堀金之丞;鳥取近世女性史研究会編)／中山まき子『原ひろ子先生の業績一覧:1934-2019 その人生の軌跡』(中山まき子、藤原千賀、宮下佳子編)／堀江優子『わたしの戦後史:95 歳、大正生れ、草の根の女のオーラルヒストリー:戦争の「痛み」を知る世代が求め続けたもの』(谷たみ語り、堀江優子編著)

・2019 年度、寄贈、購入によりジェンダー研究所から以下の書籍が新規収蔵された。[['書名』(著者名)]

『A paradise built in hell: the extraordinary communities that arise in disaster』(Rebecca Solnit)／『Bad girls of the Arab world』(edited by Nadia Yaqub and Rula Quawas)／『Being young in super-aging Japan: formative events and cultural reactions』(edited by Patrick Heinrich and Christian Galan)／『Breakfast at Tiffany's』(Truman Capote)／『Cross-national public opinion about homosexuality: examining attitudes across the globe』(Amy Adamczyk)／『Dispossession: the performative in the political』(Judith Butler; conversations with Athena Athanas)／『Diva nation: female icons from Japanese cultural history』(edited by Laura Miller and Rebecca Copeland)／『Friendship and work culture of women managers in Japan: Tokyo after ten』(Swee-Lin Ho)／『Fugitive life: the queer politics of the prison state』(Stephen Dillon)／『How places make us: novel LBQ identities in four small cities』(Japonica Brown-Saracino)／『Introducing Japanese popular culture』(edited by Alisa Freedman and Toby Slade)／『Japanese fashion cultures: dress and gender in contemporary Japan』(Masafumi Monden)／『Marching dykes, liberated sluts, and concerned mothers: women transforming public space』(Elizabeth Currans)／『One hundred poets, one poem each: a treasury of classical Japanese verse』(translated with a commentary by Peter MacMillan)／『Parting ways: Jewishness and the critique of Zionism』(Judith Butler)／『Pathways of desire: the sexual migration of Mexican gay men』(Héctor Carrillo)／『Pride House Tokyo 2019 guidebook = プライドハウス東京 2019 ガイドブック』(プライドハウス東京)／『Resilient borders and cultural diversity: internationalism, brand nationalism, and multiculturalism in Japan』(Koichi Iwabuchi)／『Sōseki: modern Japan's greatest novelist』(John Nathan)／『The gang's all queer: the lives of gay gang members』(Vanessa R. Panfil)／『The Palgrave handbook of intersectionality in public policy』(Olena Hankivsky, Julia S. Jordan-Zachery, editors)／『The Penguin book of Japanese short stories』(introduced by Haruki Murakami; edited and with n)／『The queer intersectional in contemporary Germany: essays on racism, capitalism and sexual politics』(Christopher Sweetapple, ed.; with contributions)／『The question of gender: Joan W. Scott's critical feminism』(edited by Judith Butler and Elizabeth Weed)／『The sportsworld of the Hanshin Tigers: professional baseball in modern Japan』(William W. Kelly)／

『Who sings the nation-state?: language, politics, belonging』(Judith Butler, Gayatri Chakravorty Spivak) / 『82 年生まれ、キム・ジョン』(チョ・ナムジュ著; 斎藤真理子訳) / 『アメリカの社会変革: 人種・移民・ジェンダー・LGBT』(ホーン川嶋瑤子) / 『アンダー、サンダー、テンダー』(チョン・セラシ著; 吉川風訳) / 『イヴとアダムをこえて: 女性と人権を考える』(イヴとアダムをこえて編集委員会編) / 『今、何かを表そうとしている 10 人の日本と韓国の若手対談』(西川美和 [ほか] 著; 桑畑優香訳) / 『男が痴漢になる理由』(斎藤章佳) / 『男の絆の比較文化史: 桜と少年』(佐伯順子) / 『男も女もみんなフェミニストでなきゃ』(チママンダ・ソゴズィ・アディーチェ著; くぼたのぞみ訳) / 『女たちの精神史: 明治から昭和の時代』(伊藤由希子) / 『女も男もフィールドへ』(椎野若菜、的場澄人編) / 『概説ジェンダーと法: 人権論の視点から学ぶ』(辻村みよ子著) / 『かつこうの親もずの子ども』(柳月美智子) / 『悲しくてかついい人』(イラン著; 呉永雅訳) / 『彼女は頭が悪いから』(姫野カオルコ) / 『韓国「周辺部」労働者の利害代表: 女性の「独自組織」と社会的連携を中心に』(金美珍) / 『教科書にみる世界の性教育』(橋本紀子、池谷壽夫、田代美江子編著) / 『くららと言葉』(知花くらら) / 『ゲイカップルのワークライフバランス: 男性同性愛者のパートナー関係・親密性・生活』(神谷悠介) / 『現代エスノグラフィー: 新しいフィールドワークの理論と実践』(藤田結子、北村文) / 『恋の相手は女の子』(室井舞花) / 『国家がなぜ家族に干渉するのか: 法案・政策の背後にあるもの』(本田由紀、伊藤公雄編著) / 『国際セクシュアリティ教育ガイダンス: 教育・福祉・医療・保健現場で活かすために』(ユネスコ編; 浅井春夫 [ほか] 訳) / 『侍女の物語』(マーガレット・アトウッド著; 斎藤英治訳) / 『質的研究のピットフォール: 陥らないために』(抜け出するために / 萱間真美) / 『質的社会調査の方法: 他者の合理性の理解社会学 = Qualitative research methodology』(岸政彦、石岡丈昇、丸山里美) / 『支配と抵抗の映像文化: 西洋中心主義と他者を考える』(エラ・ショハット、ロバート・スタム著; 内田(蓼沼)理絵子、片岡恵美訳) / 『しゃべり尽くそう! 私たちの新フェミニズム』(望月衣塑子 [ほか]) / 『主婦パートタイマーの処遇格差はなぜ再生産されるのか: スーパーマーケット産業のジェンダー分析』(金英) / 『ジェンダー教育の未来を拓く』(愛知教育大学男女共同参画委員会編) / 『ジェンダー六法』(山下泰子 [ほか] 編集) / 『ショウコの微笑』(チェ・ウニョン著; 牧野美加、横本麻矢、小林由紀訳) / 『シングルウーマン白書: 彼女たちの居場所はどこ?』(ツラ・ゴードン著; 熊谷滋子訳) / 『シングル単位の社会論: ジェンダー・フリーな社会へ』(伊田広行) / 『新・社会調査へのアプローチ: 論理と方法』(大谷信介 [ほか] 編著) / 『新宿二丁目の文化人類学: ゲイ・コミュニティから都市をまなざす』(砂川秀樹) / 『聖なる芸術 (アール・サクレ): 20 世紀前半フランスにおける宗教芸術運動と女性芸術家』(味岡京子) / 『西洋美術: 作家・表象・研究--ジェンダー論の視座から』(鈴木杜幾子編著; 河本真理 [ほか] 著) / 『セクシュアルマイノリティをめぐる学校教育と支援: エンパワメントにつながるネットワークの構築にむけて』(加藤慶、渡辺大輔編著; 青木真実 [ほか] 著) / 『戦争と性暴力の比較史へ向けて』(上野千鶴子、蘭信三、平井和子編; 山下英愛 [ほか執筆]) / 『そして「彼」は「彼女」になった: 安富教授と困った仲間たち』(細川貂々) / 『台湾におけるジェンダークォータ』(黄長玲) / 『たてがみを捨てたライオンたち』(白岩玄) / 『#黙らない女たち: インターネット上のヘイトスピーチ・複合差別と裁判で闘う』(李信恵、上瀧浩子) / 『誰でもない』(ファン・ジョンウン著; 斎藤真理子訳) / 『誰も排除しないスポーツ環境づくりのためのハンドブック: sports for everyone』(テキスト虹色ダイバーシティ) / 『地球星人』(村田沙耶香) / 『鶴見俊輔伝』(黒川創) / 『同性婚: 私たち弁護士夫婦 (ふうふ) です』(南和行) / 『同性パートナーシップ制度: 世界の動向・日本の自治体における導入の実際と展望』(棚村政行、中川重徳編著) / 『特集セクシュアル・マイノリティ(LGBT)への理解と支援』(精神療法第 42 巻第 1 号) / 『日本を捨てた男たち: フィリピンに生きる「困窮邦人」』(水谷竹秀) / 『ネットと愛国』(安田浩一) / 『「買春に対する男性意識調査」報告書』(男性と買春を考える会)

/『ハタチまでに知っておきたい性のこと』(橋本紀子、田代美江子、関口久志編) /『発想の転換:生協--暮らし・仕事・コミュニティ』(高橋晴雄編著) /『パワー』(ナオミ・オルダーマン著;安原和見訳) /『ビアン婚:私が女性と、結婚式を挙げるまで』(一ノ瀬文香) /『百年の女:『婦人公論』が見た大正、昭和、平成』(酒井順子) /『フィールドワーク:書を持って街へ出よう』(佐藤郁哉) /『フィールドワークの技法:問いを育てる、仮説をきたえる』(佐藤郁哉) /『フィフティ・ピープル』(チョン・セラ著;斎藤真理子訳) /『フェイクと憎悪:歪むメディアと民主主義』(永田浩三編著) /『フェミニスト・ファイト・クラブ:職場の「女性差別」サバイバルマニュアル』(ジェシカ・ベネット著;岩田佳代子訳) /『舞台の上のジャポニズム:演じられた幻想の〈日本女性〉』(馬淵明子) /『ふたりで安心して最後まで暮らすための本:同性パートナーとのライフプランと法的書面』(永易至文) /『ヘイト・クライムと植民地主義:反差別と自己決定権のために』(木村朗、前田朗共編;前田朗 [ほか] 執筆) /『「ほとんどない」ことにされている側から見た社会の話を。』(小川たまか) /『微笑みの国の工場:タイで働くということ』(平井京之介) /『マリアン・アンダーソン』(コスティ・ヴェハーネン[著];石坂廬訳) /『万引き依存症』(斉藤章佳) /『みんなのための LGBTI 人権宣言:人は生まれながらにして自由で平等』(国連人権高等弁務官事務所著;山下梓訳) /『娘について』(キム・ヘジン著;古川綾子訳) /『ムスリム女性に救援は必要か』(ライラ・アブー=ルゴド著;鳥山純子、嶺崎寛子訳) /『村から工場へ:東南アジア女性の近代化経験』(平井京之介) /『優生保護法が犯した罪:子どもをもつことを奪われた人々の証言』(優生手術に対する謝罪を求める会編) /『揺らぐ男性のジェンダー意識:仕事・家族・介護』(目黒依子、矢澤澄子、岡本英雄編;江原由美子 [ほか]) /『幼児の性自認:幼稚園児はどうやって性別に出会うのか』(大滝世津子) /『リオとタケル』(中村安希) /『ルポ同性カップルの子どもたち:アメリカ「ゲイブーム」を追う』(杉山麻里子) /『歴史と国家:19 世紀日本のナショナル・アイデンティティと学問』(マーガレット・メール著;千葉功、松沢裕作訳者代表) /『労働運動を切り拓く:女性たちによる闘いの軌跡』(浅倉むつ子 [ほか] 編著) /『わたしからフェミニズム:日本女性学研究会 20 周年記念誌:『Voice of women』selections』(日本女性学研究会「プロジェクト 20」編) /『私たちにはことばが必要だ:フェミニストは黙らない』(イ・ミンギョン著;すんみ、小山内園子訳)

【資料】⑥史料電子化プロジェクト：電子化イベント一覧

女性文化資料館(1975-1985)/女性文化研究センター(1986-1995)イベント一覧				
年度	活動区分	開催日	イベントタイトル	登壇者
1977 (S52)	講演会	1977/9/22	湯浅年子先生講演会	湯浅年子
	シンポジウム	1978/1/14	シンポジウム	
	研究会	1978/2/8	山川菊栄と女性解放思想(木下 研究会)	
	研究会	1978/3/6	社会学における家族	
1978 (S53)	研究会	1978/3/22	山川菊栄研究	
	研究会	1978/6/6	女性史研究会 欧米の女性論	
1979 (S54)	研究会	1978/7/27	女性史研究会 欧米の女性論	
	研究会	1979/5/24	女性の教育と女性問題	
	研究会	1979/10/4	アメリカ婦人労働の法的諸問題	
	シンポジウム	1980/1/26	総合科目「婦人問題」に関するシンポジウム	
1980 (S55)	研究会	1980/2/12	中山みきの思想と歩み—陽気づくめの世界をめざして 50 年—	吉原敬子
		1980/3/1	杉田和子、小島栄子、岩本のり子 於: 中村屋	
1980 (S55)	研究会	1980/4/1	平安時代の相続制と女子相続権—『平安遺文』文書を中心として—	服藤早苗
	研究会	1980/4/23	[マーガレット・ミードの女性研究 I]	村松弘子ほか
	研究会	1980/5/29	[マーガレット・ミードの女性研究 II]	田中和子ほか
	研究会	1980/7/3	インドにおける女性の政治的役割	Chandra Mudaliar
	研究会	1980/10/18	[コペンハーゲン婦人会議及び婦人差別撤廃条約について]【婦人問題懇話会 講演会】	船橋邦子ほか
	研究会	1980/10/20	性役割とセクシズム	小林啓子
	研究会	1980/11/5	Feminist Literary Criticism からみた『砂の女』	Chigusa Kimura-Steven
	研究会	1980/12/25	目黒依子『女役割』について	田中和子ほか
	研究会	1981/2/12	アメリカの女性史	金子幸子ほか
1981 (S56)	研究会	1981/3/27	フランス社会史の動向と女性史	小島智恵
	研究会	1981/5/27	人類学者のみた個人的アメリカ女性史	Frederica de Laguna
	研究会	1981/5/29	Role's of Women's College	Frederica de Laguna
	研究会	1981/6/12	『性の署名』について(1)	内藤和美ほか
	研究会	1981/7/4	『性の署名』について(2)	平川和子
	研究会	1981/7/12	高群逸枝の婚姻・家族形態研究の意義について	関口裕子
	研究会	1981/9/9	カナダの女性学について	Patricia Morley ほか
	研究会	1981/10/16	家族・親族理論研究動向	田中真砂子
	研究会	1981/11/25	兼業農家女性の就労形態の変容—長野県諏訪地方の場合—	久保桂子
	研究会	1981/12/15	オーストラリアと日本の婦人運動／ニュージーランドの女性の地位について	Romanovsky Ulrike ほか
1982	研究会	1982/1/27	千葉県における廃娼運動—国防婦人会との関連において—	船橋邦子
	研究会	1982/3/24	近現代日本の社会教育と婦人団体	木下 ユキエ
1982	研究会	1982/4/23	女子大学の存在意義を考える—アメリカ・フランス・インド等の各国を見て—	広中和歌子

(S57)	研究会	1982/5/22	女性学研究会 井上輝子、目黒依子		
	研究会	1982/6/4	近世における女性と家族	林玲子ほか	
	研究会	1982/10/22	平安時代の養子制度について—日本家族の特質をテーマに—	William McCullough ほか	
	研究会	1982/11/24	バングラディッシュの女性について	武藤敦子	
	研究会	1982/12/13	Consort, mother, beloved, "Vamp"; the symbolic depiction of womanhood in Indian calendar art	Patricia Uberoi ほか	
	研究会	1983/1/24	出産の社会史—家族の近代化に関連して—	落合恵美子	
	研究会	1983/2/15	韓国の女性について	鄭金子ほか	
	研究会	1983/3/22	『巫女の文化』について—古代女性史の見直しのために—	倉塚肇子ほか	
1983	研究会	1983/5/30	ガブリエラ・ミストラルと『女性読本』について	田村さと子	
(S58)	研究会	1983/6/30	Japanese-German Marriage in Japan: a tentative approach	Irene Hardach-Pinke	
	研究会	1983/7/29	『性の深層』をめぐって—現代西ドイツの女性運動との関連で—	大沢三枝子	
	研究会	1983/9/26	『妻と夫の社会史』について	山本郁子ほか	
	研究会	1983/11/1	女性の側からジェンダーを考える	若井文恵ほか	
	研究会	1983/11/21	Intellectual Differences between Woman and Man "Inherited or Acquired?"	Virginia Mann ほか	
	研究会	1983/12/15	機械女工たちの近代	古庄正	
	研究会	1984/2/22	『婦女新聞』の出版	石崎昇子ほか	
	研究会	1983/3/13	フィリップ・アリエス研究—子ども・教育・女性—	波多野完治ほか	
1984	研究会	1984/4/24	日本の離婚調停に関する研究	Taimie Bryant	
(S59)	研究会	1984/5/15	『更級日記』作者の宗教的コンプレックス	高木きよ子	
	講演会	1984/5/31	お茶の水女子大学百年史刊行記念講演会	林太郎ほか	
	研究会	1984/6/20	キリスト教文化と女性	杉田弘子	
	研究会	1984/7/6	The Function of Libraries, Women' Centers, and "Women's Studies" in doing Feminist Research	Helen Wheeler ほか	
	研究会	1984/10/23	『私生子』概念の発生と消長—明治期を中心とする法制・歴史と実際の扱い—	田中弘子	
	研究会	1984/11/20	Woman and Nature	Susan Griffin ほか	
	研究会	1984/12/11	中国女性史研究—小野和子『中国女性史』を読んで—	加藤直子	
	研究会	1985/2/25	樋口一葉の文学—『十三夜』と『人形の家』の比較を中心に—	フランシスカ・フンチカ	
	研究会	1985/3/14	近世関東農村における女性労働者の存在形態—年季・日雇奉公人の分析から—	青木道子	
1985	研究会	1985/4/26	ユートピアと性	倉塚平	
(S60)	研究会	1985/5/29	西欧近代の結婚観—キルケゴールをめぐって—	野村明代	
	研究会	1985/6/12	清代において模範とされている女性について	Susan Mann	
	研究会	1985/6/13	食事が子供の身体と心に与えるもの		
	研究会	1985/7/4	韓国女性の政治的、社会的地位	白京男	
			1985/10/5	第三世界の女性たちと私たち—ナイロビ報告(日本婦人問題懇話会)	
	研究会	1985/10/28	『源氏物語』にみる婚姻と居住形態と相続—光源氏と紫の上と明石君をめぐる—視角—	木下ユキエ	
	研究会	1985/11/15	主婦とテレビ	香取淳子	
	シンポジウム	1985/11/27	産むことを考える	加藤シヅエほか	
	研究会	1985/12/18	イタリア女性解放思想の歴史と今日的な段階—19世紀末から現在に至る主要な事項—	Argnani Fausta	

	研究会	1986/1/16	スイスにおける女性史研究—論文集『女性』と『イティネラ』にみる女性史家の研究動向—	佐藤るみ子
	研究会	1986/3/3	「円地文子論—"自然な女"の周辺—」	宮内淳子
1986	研究会	1986/4/25	フランス現代女性思想の流れ—ボーヴォワール・クリスティヴァ・イリガライ	棚沢直子
(S61)	研究会	1986/6/24	日本文化における『悪女』	Valerie・L・Durham
	研究会	1986/10/3	航空史における女性の役割—ドイツ女性スポーツ史の視角から	Gertrud Pfister
	研究会	1986/11/20	韓国の家族について	徐炳淑
	研究会	1986/12/8	バングラディッシュの女性—女性政策の視点から—	Jowshan Ara Rahman (ほか)
	研究会	1987/1/14	中東世界の女性—イスラームの原理と実像	黒田美代子
	研究会	1987/3/3	マレーシアの女性	Goh Beng Lan
1987	研究会	1987/4/23	公民の妻/青年団における女子活動の設立	渡辺洋子(ほか)
(S62)	研究会	1987/5/15	Impact of Economics & Technological Change on Women	Tamara・Hareven
	研究会	1987/6/24	円地文子の描いた女性像	アイリーン・マイカルス・アダチ
	研究会	1987/7/14	家計構造の長期的変容	田窪純子
	研究会	1987/8/25	舞踊と語り……祖母の語りとその姿	江川まゆみ
	研究会	1987/10/26	ラテン・アメリカの女性像	三田千代子
	研究会	1987/11/25	和泉式部と仏教	小野美智子
	研究会	1987/12/16	タイ社会における女性の役割	小野沢・ニッタヤー
	研究会	1988/2/10	日本における転職の問題とデュアル・キャリア・ファミリーについて	青木由紀
	研究会	1988/3/10	新しい家庭科をめざして	西谷洋子
	研究会	1988/3/10	家庭科における消費者教育	小関禮子
1988	研究会	1988/4/11	Income Generation of Women in Rural Bangladesh	Kohinoor Begum
(S63)	研究会	1988/5/26	South Asian Women: Challenges & Prospects	Urmila Phadnis
	研究会	1988/6/22	Some Implications of Women's Status in China	Beverly Y. B. Hong
	研究会	1988/7/8	性役割意識に関連する韓国人の価値観	金炳端
	研究会	1988/9/7	こどもの虐待と放置—小児科の全国調査から—	内藤和美
	研究会	1988/11/25	フェミニスト研究の軌跡—Stanley & Wise の『フェミニズム社会科学に向かって』が提起するもの—	矢野和江
	研究会	1989/2/21	アジアにおける女性と仕事	Noeleen Heyzer
	研究会	1989/3/7	日本のフェミニストの意識と alternative な生活スタイル	ゴー・ベン＝ラン
1989	研究会	1989/4/5	男女平等教育の実践に向けて	Peggy McIntosh
(H1)	研究会	1989/4/14	Education of Scientist who Happen to Be Women	Emily L. Wic
	研究会	1989/6/1	鎌倉期の乳父について—その存在形態と乳母との関連	秋山貴代子
	研究会	1989/6/12	Modernisation en Iran et Le Changement Socio-cultural de Role de la Femme	Nasrin F. Hakami
	研究会	1989/7/17	Problems of Homeless Children in India	Rajani Paranjipe
	合評会	1989/9/11	原ひろ子著『ヘアー・インディアンとその世界』について	田中真砂子
	研究会	1989/10/4	スペイン内戦下の女性たち	秋山充子
	研究会	1989/11/17	Women and / in Media	Ann Simonton
	シンポジウム	1989/12/13	お茶の水女子大学留学生懇談会	

	シンポジウム	1989/11/29,12/20,1990/3/19	特定研究「女性のライフコースの多様化と女子大学の役割」	Peggy McIntosh
1990 (H2)	シンポジウム	1990/4/23,24	『母性』をめぐる日独シンポジウム	館かゝおるほか
	研究会	1990/5/18	Systematic Planning for Women's in Development and Activities	Barbara Knudson
	研究会	1990/6/14	マレー農村社会における性役割—東南アジアの伝統とイスラム規範のはざまにて	花見槇子
	研究会	1990/6/26	Women's Mothering and Working Roles in Japan and the United States	Brenda Bankart
	研究会	1990/9/25	中央ユーラシア遊牧民の歴史にみる女性像	宮脇淳子
	研究会	1990/10/23	福沢諭吉の女性論	杉原名穂子
	研究会	1990/11/22	日本近代女性の自伝を読む	Ronald P. Loftus
	研究会	1990/12/5	精神的母性	Elisabeth Gössmann
	研究会	1991/3/13	女性の自然科学研究者の進路決定要因の研究について	ビヴァリー・ゲッツイ
1991 (H3)	研究会	1991/5/29	大正時代の『令女会』の歌曲—女学生の歌唱と女学生向け創作歌曲の一考察	坂本麻実子
	研究会	1991/6/10	An Anthropological Study of Gender Science in Japan & U.S.	Sharon Traweek
	研究会	1991/6/18	To a Safer Place	Dane Raphael
	研究会	1991/10/4	Woman's Movement in Comparative Perspective	Ilse Lenz
	研究会	1991/10/9	Women of the Tlingit Society in Historical Perspective	Frederica de Laguna
	研究会	1991/10/31	Confusionism and Modern Chinese Women's Family Life	黄育馥
	研究会	1991/11/15	フェミニズムの方法としてのメモリーワーク	Frigga Haug ほか
	研究会	1991/11/19	クリスティヴァ『女の時間』を読む	棚沢直子
	研究会	1991/12/19	The Situation of the Swedish Women Today	Malin Ronnblom
	研究会	1992/1/30	自治体における女性学	栗国千恵子
	研究会	1992/2/12	中国の少数民族における女性	劉耀荃
	研究会	1992/2/20	アメリカ女性学の現段階: 女性学の理論家と県空者養成システム	三宅義子
	研究会	1992/3/13	『女性と労働』日独シンポジウム	
1992 (H4)	研究会	1992/4/15	Women's Studies in Canada	Naomi Black
	研究会	1992/4/20	Sexuality and Reproduction in Women's Utopian Dystopian Literature	Blaine Martin
	研究会	1992/6/19	湯浅年子博士資料的研究の歩み	松田久子
	研究会	1992/6/22	ジェーン・アダムスの思想と行動	米澤正雄
	研究会	1992/7/20	女性と開発をめぐる諸問題	村松安子
	研究会	1992/10/26	沖繩における女性の就労と性役割分業観	国吉和子
	講座	1992/11/21,28,12/5	次世代育成能力を考える	原ひろ子ほか
研究会	1993/1/28	南インド・ナガラッターールにおける親族・婚姻及び女性	西村祐子	
1993 (H5)	研究会	1993/5/18	中国における職業分化に伴う女性の価値観と行為方式の変化について	沙蓮香
	研究会	1993/6/24	女性と表彰—「模範嫁」表彰の聞き取り調査をめぐって—	熊澤知子
	研究会	1993/7/16	ベルリンの老人ホームとケア付き集合住宅	大澤真理
	研究会	1993/9/22	女性の自己表現と文学—野上彌生子におけるフェミニズムと形式—	藤田和美
研究会	1993/10/15	—政治学者のみたジェンダー研究—オリエンタリズムとの関連—	石田雄	

	特定研究懇談会	1993/11/13	Women in Higher Education—A case of the University of California USA—	Dr.Maresi Nerad
	研究会	1993/11/14	変容する男性社会—労働、ジェンダーの日独比較	高島道枝ほか
	研究会	1993/12/3	Gender,Justice and Therapy: Can One Be a Feminist and Practise Family Therapy?	Jan McDowell
	シンポジウム	1993/12/14,15	女性とメディア	
	シンポジウム	1994/1/20	特定研究「ライフコースの多様化の時代における大学教育と女性」	
1994 (H6)	研究会/シンポ	1994/4/7	エコロジーとフェミニズムを考える	Maria Mies ほか
	研究会	1994/6/1	オーストラリア女性史研究—女性史からフェミニスト史へ	Vera Mackie
	研究会	1994/7/27	いけ花と日本女性: 知の発達・地から・ジェンダー	飛田尚弥
	研究会	1994/8/29	Feminist Studies and Qualitative Empirical Methods: the Case of Sex Tourism and Traffic in Women	Ilse Lenz
	研究会	1994/9/27	Internationalization and Gender Relations: Theoretical Approaches	Ilse Lenz
	研究会	1994/10/31	家族法改正をめぐる文献とその論点	海妻径子
	シンポジウム	1994/11/2	学内共同教育研究プロジェクト・大学における女性学及び女性学研究センターの役割について	
	研究会	1995/1/27	How to combine Parenthood and Work?—Policies on Gender in Sweden—	Rita Liljestrum
	研究会	1995/2/21	Current Trends in Women's Studies in India: Gender,Development and Empowerment/	Malavika Karlekar ほか
	研究会	1995/3/1	Women, Education, and Development in Bangladesh	Saleha Begum
1995 (H7)	研究会	1995/4/13	日本の女性国会議員—その形成と構造	大海篤子
	研究会	1995/5/12	姉さん女房の社会学	Ursula Richter
	研究会	1995/6/16	女性と政治	Elic Plutzer
	研究会	1995/7/3	遺伝子とジェンダー	Joan Hideko Fujimura
	研究会	1995/9/18	アメリカのフェミニスト法理論の現在	Frances Olsen
	研究会	1995/10/13	社会主義フェミニズムの観点から見る『雁』	玉枝 Prindle
	研究会	1995/11/24	エコロジーとフェミニズム	山本良一
	シンポジウム	1995/12/2	湯浅年子メモリアルカンファレンス—エレヌ・ランジュヴァン・ジョリオをむかえて	Hélène Langevin-Joliot
	研究会	1995/12/19	The place of women in Egyptian Society	Samia Khedr Saleh
	研究会	1996/2/14	ネパールにおける Management と WID の視点	福土恵理香
研究会/シンポ	1996/3/19	日本の学問研究とジェンダー	館かおる	

【資料】⑦国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所規則

(平成27年3月25日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構規則第4条第2項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下「研究所」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 研究所は、グローバル女性リーダー育成研究機構に附属する研究所として、ジェンダーに関する総合的、国際的な研究及び調査を行うとともに、ジェンダー研究者の育成に資することを目的とする。

(研究及び業務)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる研究及び業務を行う。

- (1) ジェンダーに関する国際的研究及び調査
- (2) ジェンダー研究に関する教育研修
- (3) ジェンダー研究に関する文献・資料の収集および整理
- (4) ジェンダー研究に関する情報の提供
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 研究所に、次に掲げる職員を置く。

- (1) 研究所長
- (2) 教員
- (3) 特別招聘教授
- (4) 研究員
- (5) その他学長が必要と認めた職員

2 研究所に、次に掲げる職員を置くことができる。

- (1) 特任教員
- (2) 客員研究員
- (3) 研究協力員

(研究所長)

第5条 研究所長は、基幹研究院人文科学系、人間科学系及び自然科学系の系会議構成員である教授のうちから学長が任命する。

2 研究所長は、研究所の業務を掌理する。

3 研究所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第6条 研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に従事する。

2 研究員は、基幹研究院に所属する教員のうちから、学長が任命する。

3 研究員の任期は2年とし、その終期が研究員となる日の属する年度の翌年度の末日を超えることとなる場合は、翌年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第7条 客員研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に参画する。

2 客員研究員は、本学専任の教員以外の者を、学長が委嘱する。

3 客員研究員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(研究協力員)

第8条 研究協力員は、第3条に掲げる研究及び業務に協力する。

2 研究協力員は、本学専任の教員以外の者を、研究所長が委嘱する。

3 研究協力員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(運営会議)

第9条 研究所に、研究所の運営並びに研究及び業務に関する事項を審議するため、ジェンダー研究所運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 研究所長

(2) 第4条第1項第2号に掲げる教員

(3) 第4条第1項第3号に掲げる特別招聘教授

(4) 第4条第1項第4号に掲げる研究員

(5) その他グローバル女性リーダー育成研究機構長が必要と認めた者

3 運営会議の議長は研究所長をもって充て、議長は運営会議を主宰する。

4 運営会議の構成員は、第2条の目的を達成する上で必要な事項について、運営会議での審議を求めることができる。

5 研究所長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

6 本条に定めるほか、運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 研究所の事務は、企画戦略課が行う。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

2 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究センター規則は、廃止する。

【資料】⑧国立大学法人お茶の水女子大学特別招聘教授に関する規則

(平成 27 年 3 月 25 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学職員就業規則(以下「職員就業規則」という。)第 4 条第 5 項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学(以下「本学」という。)のグローバル女性リーダー育成研究機構に置く研究所において雇用する特別招聘教授に関し必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 この規則において「特別招聘教授」とは、国際的に著名な研究者又は顕著な業績を有する研究者で、グローバルな視野から本学の教育研究活動の一層の推進及び活性化を図ることを目的として、本学が常勤の教員として採用する者をいう。

(選考)

第 3 条 特別招聘教授の選考は、教員人事会議の議を経て、学長が行う。ただし選考に係る審査は、基幹研究院長に付託するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、学長の戦略的人事による選考は、役員会の議を経て、学長が行うものとする。

3 前 2 項の選考にあたっては、国立大学法人お茶の水女子大学教員選考基準第 1 条の規定を準用する。

(定年・雇用期間)

第 4 条 特別招聘教授の定年は 65 歳とし、当該定年に達した日以降における最初の 3 月 31 日(以下「定年退職日」という。)に退職するものとする。ただし、学長が特に必要があると認める職員については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認める場合には、5 年以内の期間を定めて雇用することができる。

(給与及び退職手当)

第 5 条 特別招聘教授の給与は、国立大学法人お茶の水女子大学職員就業規則第 4 条第 4 項の規定に基づき年俸制を適用して雇用する教員の就業に関する規則(以下「年俸制適用教員の就業に関する規則」という。)

第 2 条第 1 号の規定に基づき採用された教員に関する同規則第 6 条から第 13 条の規定を適用する。

2 特別招聘教授の退職手当は支給しない。

(赴任及び帰国旅費)

第 6 条 特別招聘教授には、赴任及び帰国のための旅費を支給する。ただし、帰国のための旅費は退職後 3 か月以内に本邦を出発する場合に限り支給し、一時帰国のための旅費は学長が必要と認める場合に支給するものとする。

(就業等)

第 7 条 特別招聘教授の就業に関し、この規則に定めのない事項については、職員就業規則の定めるところによる。

2 特別招聘教授の給与に関し、この規則に定めのない事項については、国立大学法人お茶の水女子大学職員給与規程の定めるところによる。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、特別招聘教授に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行後最初に採用される特別招聘教授は、この規則に基づき選考されたものとみなす。

附 則(平成 27 年 10 月 23 日)

この規則は、平成 27 年 10 月 23 日から施行する。

附 則(平成 28 年 2 月 19 日)

この規則は、平成 28 年 2 月 19 日から施行する。

【資料】⑨『ジェンダー研究』編集方針・投稿規程

《編集方針》

1. 『ジェンダー研究』(以下、本誌)は、学際的・国際的なジェンダーに関する最新の研究成果を発信し、グローバルなジェンダー研究の発展に寄与する。
2. 本誌は、特集記事・投稿論文・書評からなる。
3. 本誌は特集記事を企画し、時宜にかなったもの、国際的な関心の高いもの、新領域を開拓するものなど、現在のジェンダー研究にとって重要であるテーマで、質の高い論文を掲載する。
4. 投稿論文は、国内外・学内外を問わず公募し、厳正な審査を経て掲載することで、質の高い学術論文の国内外への頒布を進める。
5. 書評は、国内外のジェンダーに関する書籍を厳選し、最先端の研究動向の紹介およびそれについての考察を加えた論評を行う。
6. 本誌の刊行により、国内外・学内外のジェンダーに関する研究の発展を促進し、グローバルかつ有機的な研究交流の構築を目指す。そして、国立大学法人として、男女共同参画社会の実現に貢献する等の、社会的要請にも応える。

《投稿規程》

- 1 投稿する論文は、女性学・ジェンダー研究に関する、学術的研究に寄与するものとする。
- 2 投稿者は、国内外を問わず、学際的に女性学・ジェンダーに関する研究に従事する者とする。
- 3 投稿する論文は、未発表の論文に限る。
- 4 論文執筆における使用言語は、原則として日本語または英語とする。日本語／英語以外の言語による投稿に関しては、編集委員会において検討する。
- 5 投稿論文は原則として、
日本語の論文は、注・図表・参考文献を含めて20,000字以内
英語の論文は、注・図表・参考文献を含めて8,000ワード以内
- 6 論文の提出時には、本文・図表・参考文献のほか、以下についても提出すること。
6-1 表紙。論文タイトル(副題も含む)と投稿者氏名・所属を、日本語と英語とで記す。
(タイトル等の英語表記は、確認のうえ編集事務局で変更する場合もある。)
6-2 日本語要旨。400字以内。
6-3 英語要旨。200ワード以内。ネイティブチェック済のもの。
6-4 キーワード。日本語・英語ともに5語以内で、それぞれの要旨の後に記載する。

- 7 投稿論文は、ジェンダー研究所ウェブサイト上の、以下のいずれかの投稿フォームより、必要事項を入力したうえで、メール添付にて送付すること。

日本語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72482244933459>

英語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72488720633461>

- 8 本文と要旨などのテキストのデータは Word と PDF のファイルにし、図、表のデータは Word または Excel と PDF にし、写真は JPEG と PDF のファイルにして提出すること。
- 9 他の文献等から図、表、写真などの転載を行う場合は、原則として投稿者が自らの責任において必要な手続きを行う。その際の費用に関しては投稿者が負担する。
- 10 本文、引用文、参考文献、注については、別に定める<『ジェンダー研究』執筆要項>に従う。英語の投稿論文は Harvard Referencing System とする。
- 11 投稿論文の掲載の可否は、査読者による審査のうえ、編集委員会が決定する。
- 12 編集委員会は、査読者の審査にもとづき、投稿者に論文の修正を求めることがある。求められた投稿者は、速やかに論文を修正し、メールにて提出しなければならない。
- 13 投稿者による校正は原則 2 回までとする。
- 14 投稿後、投稿論文を取り下げる場合は、速やかに編集委員会に申し出ること。
- 15 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし、図・表・写真などが多い場合には、執筆者による自己負担となることがある。
- 16 掲載論文の著作権はお茶の水女子大学ジェンダー研究所に帰属するものとする。転載を希望する場合には、編集委員会の許可を必要とする。

(2017 年 10 月 27 日改訂)

【資料】⑩ジェンダー研究所ウェブサイト プライバシー・ポリシー

1. 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下、本研究所)ウェブサイトでは本研究所のイベント開催に際して、イベント参加申込者の個人情報(氏名等により特定の個人を識別できるもの)を、本ウェブページ上にて収集することがあります。
2. 収集した個人情報はイベント開催における会場手配や安全確保、配布資料作成の参考として利用するものであり、本研究所のイベント開催通知以外では利用することはありません。
3. 収集した個人情報の管理は、ウェブ担当者が漏洩、紛失、改竄等に対する安全対策を行うことで保護し、その責任は本研究所所長が最終的に負います。
4. 本研究所では、プライバシー・ポリシーを改定することがあります。改定する場合は、当ウェブサイトでお知らせします。

附 則

このプライバシー・ポリシーは、2015 年 7 月 1 日から施行します。

国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構
ジェンダー研究所（IGS）
2019年度事業報告書

編集担当：申琪榮・和田容子

発行：お茶の水女子大学ジェンダー研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

Tel: 03-5978-5846

igsoffice@cc.ocha.ac.jp

<http://www2.igs.ocha.ac.jp>

2020年9月作成